

# 會 報

第 10 号



公益社団法人 神戸海難防止研究会

THE KOBE MARINE CASUALTY PREVENTION INSTITUTE

表紙写真

徳島小松島港

徳島県 県土整備部 提供

## 目 次

### 第21回 月 例 会 概 要

- (1) 事業経過報告等…………… 1
- (2) 講演 I 「気象災害から命を守る防災情報」  
大阪管区气象台 気象防災部  
気象防災情報調整官 熊原 義正 氏
- 講演 II 「海洋等に関する情報について」  
大阪管区气象台 気象防災部  
海洋情報調整官 永井 千春 氏

### 第22回 月 例 会 概 要

- (1) 事業経過報告等…………… 13
- (2) 講演「海洋国家日本の現状と展望」  
第三管区海上保安本部アドバイザー  
下田市観光大使  
三木 基実 氏

### 事 業 報 告

- 神戸港港湾計画の変更（軽易な変更）に関する調査検討委員会 …… 21
- LNG 船受入船型拡大及び着離棧基準に係る航行安全対策調査委員会ビジュアル式操船  
シミュレータ実験Ⅲ…………… 24
- 平成26年度第4回船積危険品研究委員会…………… 27
- 平成26年度明石海峡航行操船への津波の影響に関する調査研究第1回委員会…………… 29
- LNG 船受入船型拡大及び着離棧基準に係る航行安全対策調査委員会第4回検討部会… 31
- 平成26年度第5回船積危険品研究委員会…………… 33
- LNG 船受入船型拡大及び着離棧基準に係る航行安全対策調査第3回委員会…………… 35
- 平成26年度近畿・四国地方海難防止強調運動実施結果（報告）…………… 37

## 会 務 報 告

第21回業務運営会議..... 67

第22回業務運営会議..... 69

事務日誌抄..... 70

### お知らせ

海上保安庁 海洋情報部「来島海峡潮流情報」..... 71

会員名簿の訂正について..... 74

## 第21回 月 例 会 概 要

- 1 日 時 平成26年7月25日(金)15:00～16:30
- 2 場 所 神戸市立 こうべまちづくり会館 2階ホール
- 3 出 席 者 26名
- 4 概 要

(1) 事業経過報告等

山本専務理事から事業報告及び会務報告が行われた。

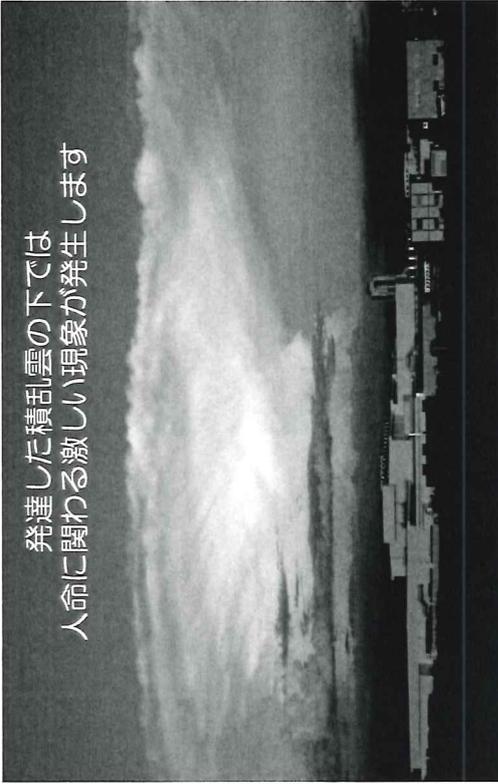
(2) 講 演

大阪管区气象台気象防災部 気象防災情報調整官 熊原 義正 氏並びに同气象台海洋情報調整官 永井 千春 氏により講演が行われた。

- ① 「気象災害から命を守る防災情報」 熊原 義正 氏
- ② 「海洋等に関する情報について」 永井 千春 氏

「気象災害から命を守る防災情報」

講師 大阪管区気象台気象防災部  
気象防災情報調整官 熊原 義正 氏



2

**気象災害から命を守る防災情報**

神戸海難防止研究会 第21回月例会  
2014.7.26 15:10～  
神戸市立 ころもまちづくり会館

特別  
警報

気象庁

大阪管区気象台 気象防災部  
気象防災情報調整官 熊原 義正

1

**木の下での雨宿りはとても危険です**

木のそばにいと、木に落ちた雷が人に飛び移ることがある

落雷時、樹木の下は大変危険です。  
安全な場所に避難してください。

落雷に注意!!

(写真提供:電力中央研究所)

落雷に注意を呼びかける大阪城公園内の看板

4

**積乱雲が引き起こす災害の特徴**

急な強い雨による増水

神戸市  
河川(三ヶ岡川)カサマシマスダムより

落雷

香取製鉄工業株式会社  
「雷」写真コンテスト提供

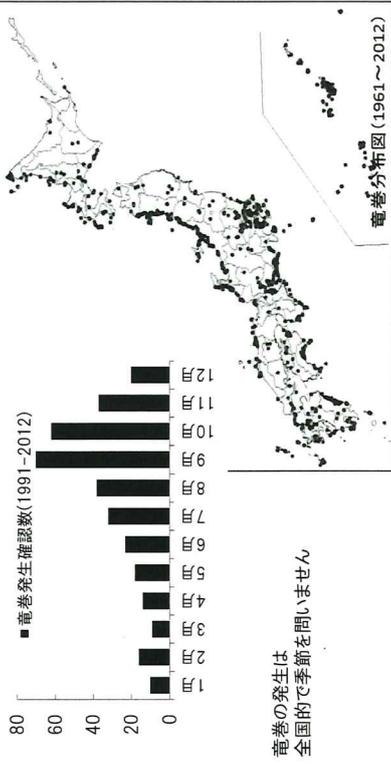
激しい突風

気象庁ハロワフレット  
「豪雨から身を守る」より

急に襲ってくる  
 現象は比較的短時間(1時間程度)  
 発生場所や発生時間の予測が難しい現象

3

## 竜巻は全国で発生しています



5

## 竜巻が発生しやすい気象状況になると 竜巻注意情報を発表します

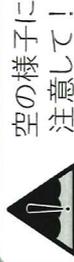
大阪府竜巻注意情報 第1号  
平成26年 8月28日18時05分  
大阪管区気象台発表

大阪府は、竜巻などの激しい突風が発生しやすい気象状況になっています。

空の様子に注意してください。雷や急な風の変化など積乱雲が近づくと兆しがある場合には、確実な建物内に移動するなど、安全確保に努めてください。落雷、ひょう、急な強い雨にも注意してください。

この情報は、28日19時10分まで有効です。

竜巻以外にダウンバーストなども含まれる



1時間は注意が必要で、危険な状況が続く場合は改めて発表される

6

## 積乱雲が接近するサイン

- 真っ黒い雲が近づき周囲が急に暗くなる
- 雷鳴が聞こえたり電光が見える
- ヒヤッとした冷たい風が吹きだす
- 大粒の雨やひょうが降りだす

7

## 今いる場所は安全か？ ナウキヤストで確認する



- 表示が赤色系になるほど危ない状態
- 1時間先までの予報が10分ごと(雨は5分ごと)に発表される
- 携帯電話やスマートフォンで確認できる

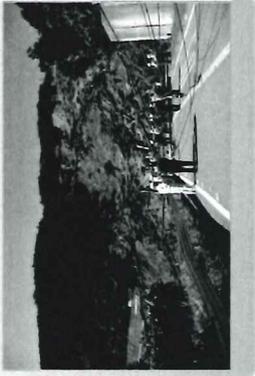
携帯端末に登録しておきましょう(国土交通省防災情報提供センター)



8

集中豪雨は甚大な災害を引き起こし  
毎年多くの人の命を奪っています

土砂災害



洪水、浸水

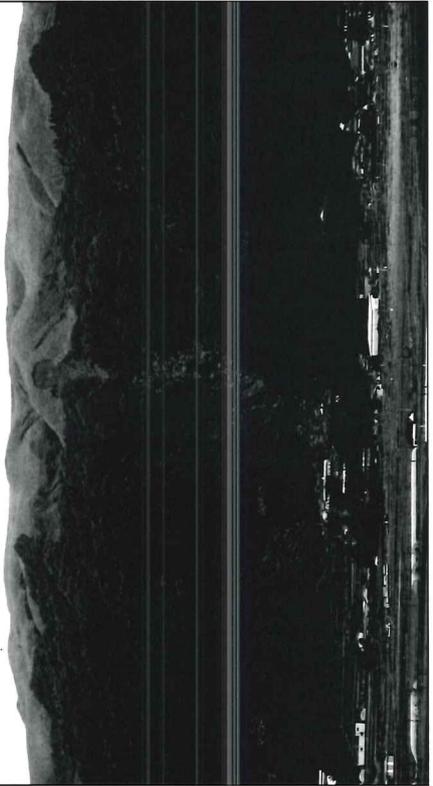


福岡県江津市（中山町地区：中山大規模崩落）  
兵庫県土佐郡土佐町提供

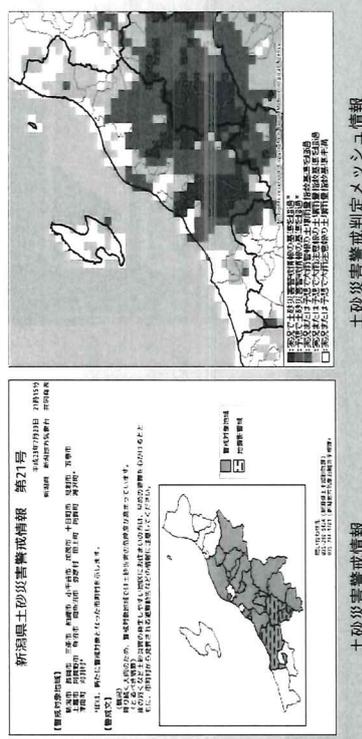
大雨災害は毎年各地で発生しています



土砂災害には事前の避難が重要です



土砂災害発生の危険度が  
非常に高くなったときに発表される情報

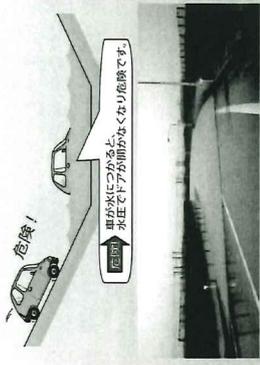


土砂災害警戒判定メッシュ情報

土砂災害警戒情報

水害は川から離れた場所でも起きます

アンダーパス



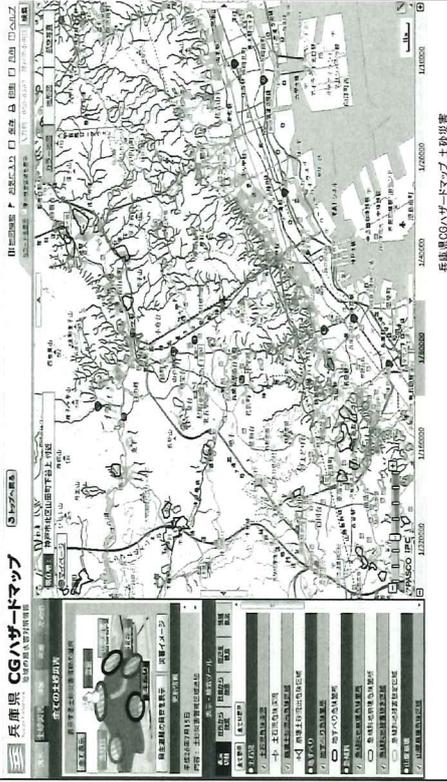
地下街



アンダーパスや地下への浸水で人が亡くなることも

13

災害に注意が必要な場所を調べておきましょう



14

まわりの状況に応じた避難行動で  
集中豪雨から身を守りましょう



気象業務所はいま2012 新潟県三条市「集雨災害対応ガイドブック」

15

特別警報は  
これまででない危険が迫っていることを知らせます



16

## 行動判断は段階的に発表される防災情報で

特別警報

さらに激しい大雨が降り、さらに

市町村からの避難勧告等に従い直ちに避難所に避難！

外出が危険なときは、家の中で少しでも安全な場所へ移動

警報

大雨が降り続く

自治体が発表する避難に関する情報を注意し、必要に応じて速やかに避難

注意報

雨が強くなると

最新の情報に注意して、災害に備えた早めの準備を

雨・風の影響を受けやすい地区・避難困難者は早めの行動！

普段から... 雨が降り出す

大雨になるおそれ、雨が降り出す

気象情報、空の変化に注意

17

## 外出先でも防災情報が入手できます

ひょうご防災ネット



ひょうご防災ネットから

国土交通省防災情報提供センター



国土交通省防災情報提供センター

10月16日 14時00分

兵庫県の高気圧情報が発表されました。

<警報発令>

・即時発令に発令された警報を示します。

神戸市：大雨 水 波浪

姫路市：大雨 洪水 高気

<警報解除>

18

## 普段からの備えと早め早めの行動が あなたや身近な人の命を守ります

**特別警報**

警報の発表基準をはるかに超える現象に対して「特別警報」を發表します。

**特別警報**

「特別警報」が発表されたら、身を守るために最善を尽くしてください。

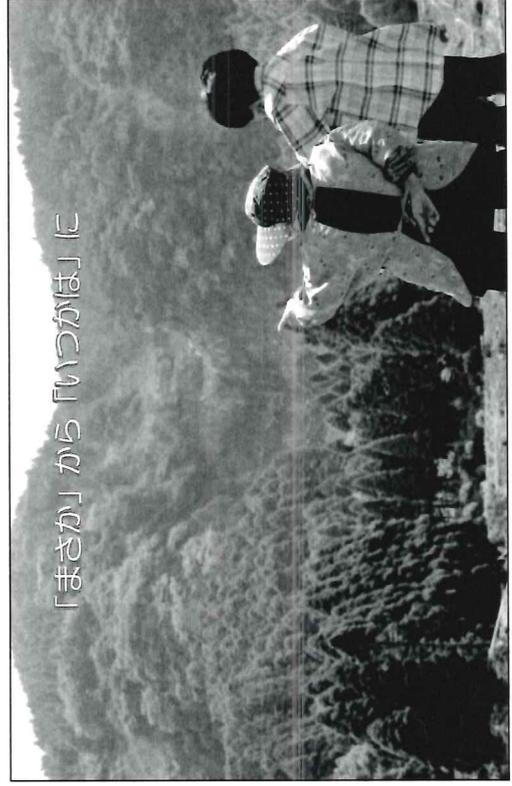
**特別警報**

「特別警報」が発表されないからといって安心することは禁物です。

**Point**

特別警報が発表されていなくても、早め早めの行動を！

19



20

# 海洋等に関する情報について

大阪管区気象台  
海洋情報調整官 永井千春

## 管区気象台等 地球環境・海洋課の業務 (4つの柱)

- 地球環境(地球温暖化)  
地球温暖化情報官
- 季節予報(1か月予報、3か月予報、暖候期予報、寒候期予報、異常天候早期警戒情報、天候情報)  
予報官
- 沿岸防災(潮位情報など)  
沿岸防災情報官
- 海洋情報(海洋の健康診断表)  
技術専門官

# 「海洋等に関する情報について」

講師 大阪管区気象台気象防災部  
海洋情報調整官 永井千春氏

## 昨年、海洋気象に関する業務が、神戸海洋気象台から大阪管区気象台に。

報道発表資料  
平成25年9月20日  
気象庁

気象庁組織改編(平成25年10月1日付)の概要について

気象庁では、気象的災害の軽減を図るため、10月1日に本庁及び地方組織の改編を行いました(平成25年11月29日報道発表)。このことに関連して、本日、「国土交通省組織令の一部を改正する政令」が閣議決定され、今後定まる「気象庁組織規程」の改正に合わせて、組織改編の内容を主に以下のとおり形式に定め、10月1日に施行しますのでお知らせいたします。

地球環境・海洋課と海洋情報調整官が設置されました。

1. 本庁
  - 気象的災害を絶頂するポストを新設する。
  - 総務部「参事官」(気象防災)を設置する。
2. 地方
  - 海洋気象台で行っていた気象的災害の軽減・予測に関する海洋気象業務を、陸地の現象の観測・予測を行う気象台(管区気象台)に転移することにより、高度な高度などの気象的現象を含めた気象的災害の防止を図る。
  - 管区気象台技術部を拡充して「気象的災害」に改組する。
  - 近畿管区気象台、神戸海洋気象台、長崎管区気象台は、それぞれ「(管区)地方気象台」、「(神戸)地方気象台」、「(長崎)地方気象台」に改組する。
  - (なお、舞鶴海洋気象台は廃止し、新たに本庁組織の「日本海海洋気象センター」を舞鶴市に設置して、日本海の海洋に関する調査業務を実施する。)

## 大阪管区気象台地球環境・海洋課 (地球環境に関する情報)

地球温暖化の緩和策や適応策に役立つ情報を提供します。

大阪管区気象台ホームページ「近畿・中国(山口県を除く)・四国地方の気候変動(2013年版)」  
<http://www.jma-net.go.jp/osaka/kou/ondanka/ondanka.html>

収録内容

近畿地方(近畿府内:1996年~2012年)

近畿地方(近畿府内:1996年~2012年)の気候変動(2013年版)

広報用リーフレット



## 総合診断表 第2版の概要

### 第1章 地球温暖化に関わる海洋の長期変化

気候は主として大気と海洋との相互作用によって決まるとともに、人為起源により排出された二酸化炭素の多くが吸収されています。このため、大気の大気温暖化の進行には、海洋が重要な役割を果たしています。

1950年代から2000年代にかけて、海面水温は顕著な上昇傾向を示しています。これは、大気温暖化による海洋への熱の吸収によるものと推定されています。

### 第2章 気候に起因する海洋の変動

気候は、大気と海洋との相互作用によって決まるとともに、人為起源により排出された二酸化炭素の多くが吸収されています。このため、大気の大気温暖化の進行には、海洋が重要な役割を果たしています。

1993年から2000年までの間に、海面水位は顕著な上昇傾向を示しています。これは、大気温暖化による海洋の膨張と氷河の融解によるものと推定されています。

### 第3章 北西太平洋の海洋汚染の状況

海洋汚染は、気候変動と関連して、大気と海洋との相互作用によって決まるとともに、人為起源により排出された二酸化炭素の多くが吸収されています。このため、大気の大気温暖化の進行には、海洋が重要な役割を果たしています。

北西太平洋の海洋汚染は、大気温暖化と関連して、大気と海洋との相互作用によって決まるとともに、人為起源により排出された二酸化炭素の多くが吸収されています。このため、大気の大気温暖化の進行には、海洋が重要な役割を果たしています。

## 波浪の情報

### 沿岸及び外洋の波浪についての実況と予想

#### 観測の状況と予想

- 観測データ (観測データ)
- 波浪予測 (波浪予測)
- 波浪予測 (波浪予測)
- 波浪予測 (波浪予測)

#### 波浪の状況

#### 波浪の状況

気象庁HP「海洋の健康診断表」 波浪  
[http://www.data.jma.go.jp/gmd/kayou/shindan/index\\_wave.html](http://www.data.jma.go.jp/gmd/kayou/shindan/index_wave.html)

## 海水温、海流の情報

### 海面水温: 海面から深さ5.0mまでの水温

### 熱帯水温: 深さ50mの深れ

気象庁HP「海洋の健康診断表」  
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/kayou/shindan/index.html>

## 海水温・海流

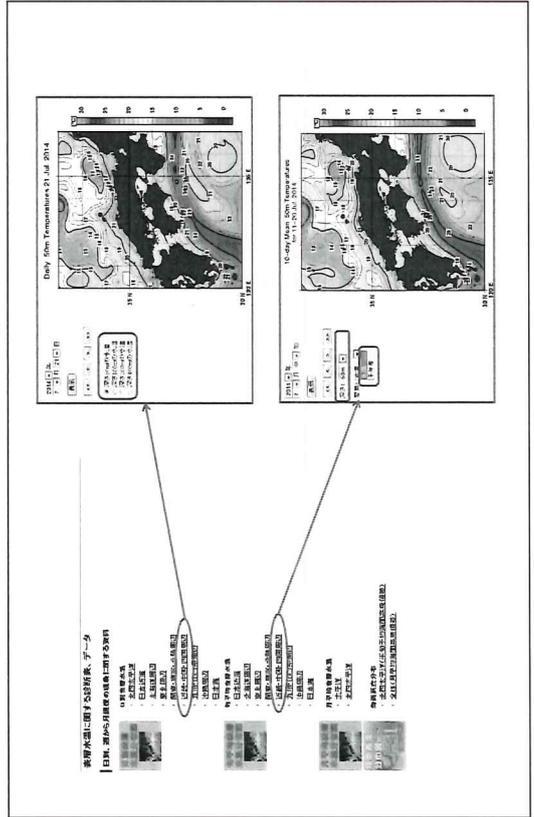
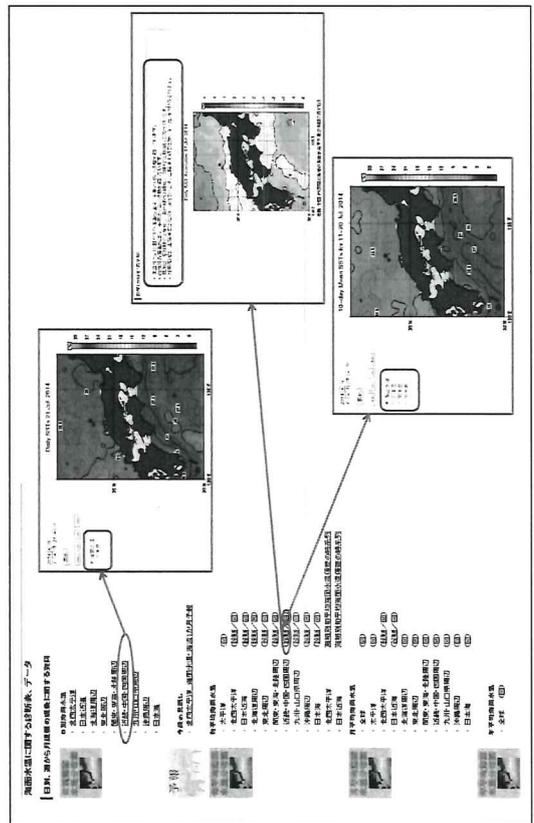
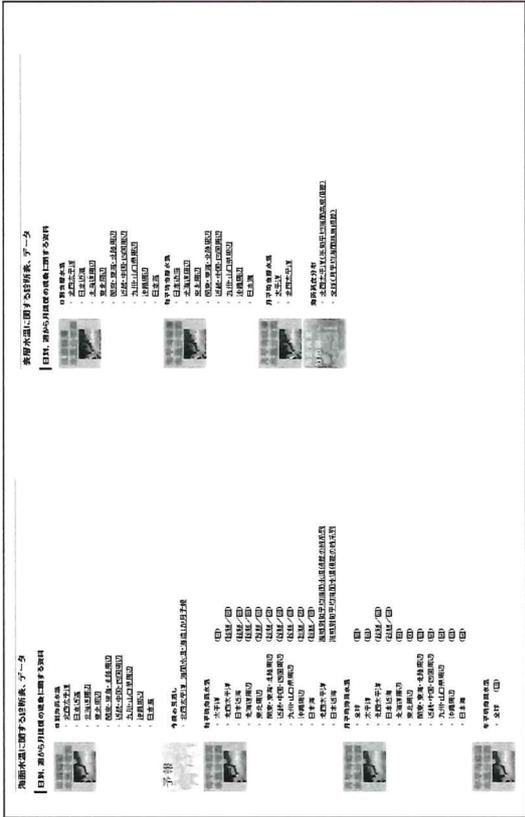
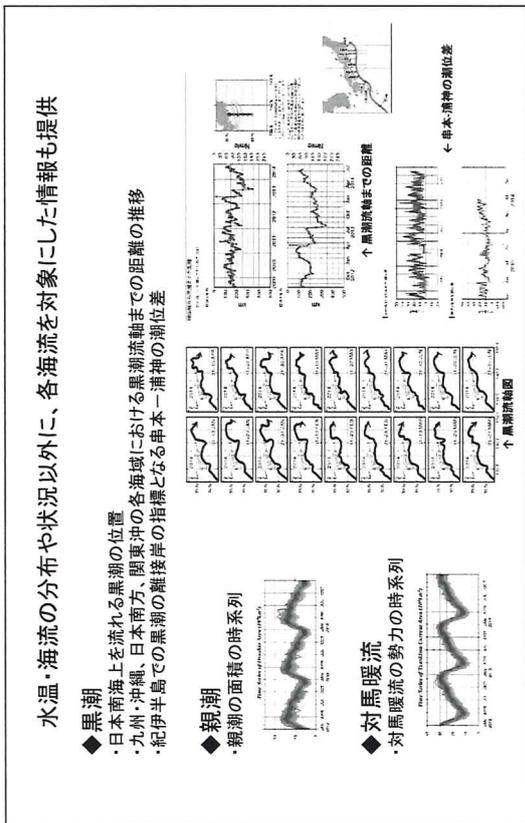
海面水温実況

熱帯水温実況

海面水温実況

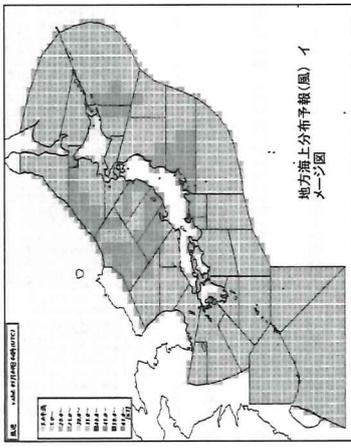
熱帯水温実況

海水温は、台風、発達など気象に起因しており、日本や世界の気候にも大きな影響を与えます。また、漁場など漁業にも関係しています。海流は、その変動が漁業や船舶の運航に大きな影響を与えます。冬季には、大気と海洋に大きな影響を与える海水についての情報も提供。





### 地方海上分布予報の提供開始（平成27年3月予定）



(現在)  
気象庁では、日本近海（地方海上予報区）を航行する船舶向けに、文字情報である地方海上予報、地方海上警報を発生しています。これらは海上保安庁のナビゲーションや無線電話等により利用者に伝達されています。

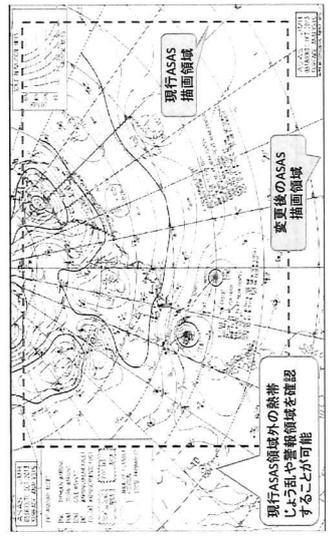
(予定)  
今年度から、図情報となる地方海上分布予報（右図：イメージ）を提供開始します。これは、地方海上予報・警報に記述している気象要素を、わかりやすい図形式で提供するものです。  
気象庁では気象庁HPと防災機関向け（防災情報提供システム）に掲載するほか、海上保安庁の沿岸域情報提供システム(MICS)への掲載も依頼しているところです。

要素：風、波、視程(霧)、着氷  
領域：地方海上予報領域  
格子間隔：緯度経度1度ごと  
予想時間：6時間間隔で24時間先まで  
発表回数：1日4回

### アジア地上天気図（ASAS）等の描画領域の変更等

海上の人命の安全のための国際条約(SOLAS条約)により、気象庁は北西太平洋のGIMBSS責任領域に対して海上警報を行っています。気象庁が気象無線複写通報(IMH)等で提供しているアジア地上天気図(ASAS)、海上悪天予想図(FSAS2/4/8)、台風予報図(WTAS07/12)はこの海上警報を補完するものですが、現状では責任領域全体をカバーできていないことから、これを改善し、責任領域全域を描画するよう変更します。(平成26年10月の実施を予定)

- (変更点)  
(1) 描画領域の拡大  
(右図：FSAS/WTASも同様)  
(2) プロダクト名称  
★アジア地上天気図を「アジア太平洋地上天気図」に変更  
★海上悪天2/4/8時間予想図を「アジア太平洋海上悪天2/4/8時間予想図」に変更  
(3) SVG形式での提供拡充  
ASASの提供(新増)  
FSAS2/4/8の内窓(霧域、船体着氷域、海水域、強風域(3ノット以上)の悪天情報を追加)  
(経過措置)  
従来領域のプロダクト(PNG形式)を、別ファイル名にて並行配信(平成27年3月頃まで)



現行ASAS領域外の沿岸  
じょう乱や警報領域を確認  
することが可能

## 第22回 月例会 概要

- 1 日 時 平成26年9月25日(木)15:00～16:15
- 2 場 所 神戸市立 こうべまちづくり会館 2階ホール
- 3 出 席 者 23名
- 4 概 要

(1) 事業経過報告等

山本専務理事から事業報告及び会務報告が行われた。

(2) 講 演

第三管区海上保安本部 アドバイザー 三 木 基 実 氏により「海洋国家  
日本の現状と展望」と題し、講演が行われた。



### 海上保安庁の生い立ちと防衛庁設置への道程

- 1 第2次世界大戦終了直前の対日航路作戦
- 2 第2次世界大戦終了
  - 10, 000回、我が国の命脈を繋ぐ内航・外航海運業を途絶に追い込んだ。
  - 船舶の80%を失い、残りの70%が戦時標準船、その残りが平均年齢22年以上の老朽船という海運能力が極度に破壊され、灯台は電源を喪失し、我が国の主要港湾及び重要港湾に日米両軍が敷設した地雷は、その数約67, 000個あり、まさに暗黒の海と言える状況にあった。
- 3 昭和22年、GHQの米国沿岸警備隊(U.S.C.G.)ミールズ大佐からの助言・勧告
  - 暗黒の海に立ち向かう組織として昭和23年4月27日海上保安庁法公布、5月1日に海上保安庁発足。このとき、明治元年から始まる旧運信省灯台局と明治4年からの旧海軍水陸部を含めスタートした。
- 4 朝鮮戦争勃発(昭和25年6月25日)
- 5 サンフランシスコ講和条約署名(昭和26年9月8日)
- 6 海上保安庁内に海上警備隊設置(昭和27年4月26日)

○ 総理府警察予備隊+海上保安庁海上警備隊 → 保安庁 → 昭和29年 防衛庁 → 防衛省

∴ 警備隊の延長線上 → 正当防衛 緊急避難 正当業務行為の制限

### 海上警備隊と防衛

ベトナムVS中国の南シナ海における衝突は、ベトナム海上警備隊の公船VS中国海警の公船という海上警察権に限定した衝突であり、軍艦による軍艦紛争ではないとして対応した

双方で6万人以上の死者を出した中韓領土の衝突を回避した

ベトナム海洋警察司令部

- ・1998年、海軍の下部組織として設置(海上警察)
- ・2008年、国防省直属の組織として独立
- ・2018年8月、国防省から分府、国家の専門機関(首相直轄)へ移設(海上警察司令部へ改称)

### Coast GuardとNavyの違い等

- 1 Coast Guard : 海上警察力  
確認・逮捕が主目的 勢力は、分散
- 2 Navy : 海上軍専力  
先制・撃破が主目的 勢力は、集中

※ 麻子 「兵は国の大事にして、死生の地、存亡の地なり。 察せざるべからず。」  
「百戦百勝は善の善なるものに非ず。  
戦わずして人の兵を屈するは善の善なるものなり」

### 時代の変遷と海上保安庁のあゆみ

昭和初期	昭和23年5月 海上保安庁発足	周辺海域には多数の砲艦、船群探知は遅延、密輸・密航が横行 発足当初の勢力：定員8, 156名、船艇188隻
昭和後期	昭和27年1月 香取防ライン開設	大船多数海域のしよう成
	昭和45年12月 海防汚染防止法制定	海上公官の監視取締体制の強化
	昭和49年11月 IFCタンカー一掃洋丸衝突火災海難	特殊救難隊発足、東京湾海上交通センター設置
	昭和52年7月 「領海法」(1.2海里)施行 「漁業水域に関する暫定措置法」(2.0海里)施行	船舶・航空機の寸断捜索 新たなしよる隊体制の整備を推進
平成初期	昭和61年12月 日米SAR協定締結	捜索救助区域の拡大に伴い、ジェット飛行機フルコン等救急
	平成8年7月 国際海洋法条約空効(排他的経済水域の設定)	尖閣諸島領有権主張活動が活発化
	平成11年3月 熊鷹半島沖不審船衝突	監視面、法制面、運用面の体制整備
	平成13年9月 米国同時多発テロ事件	原発時に対する準備強化
	平成18年12月 九州南西海域における工作船事件	高速高性能巡視船の開発
	平成21年6月 海防対処法成立	海上保安官が領海内と同乗し、ソマリア周辺海域において司法警察活動を実施
現在	平成24年9月 公開三島の取得・保有	尖閣諸島周辺海域における多数の中国公船による接近事業が断続的に発生

#### 時代の変遷に応じた適切な対応

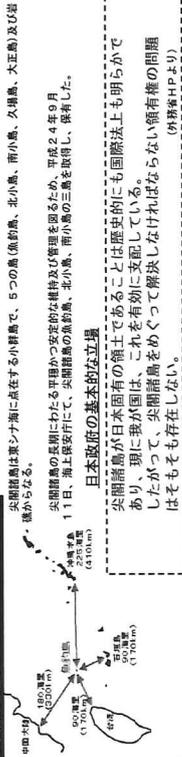
教育機関

- 海上保安大学校(広島県呉市)
- 海上保安学校(京都府舞鶴市)
- 海上保安学校(京都府舞鶴市)
- ... 一船団員養成機関

「正義仁愛」の精神のもと、海上保安業務遂行の基盤となる優秀な人材の育成  
海上保安庁発展の礎

### 尖閣諸島周辺海域における領海警備 等

#### 尖閣諸島の概要



#### 尖閣諸島周辺海域における領海警備

中国漁船・中国公船・領有権主張活動の状況



中国公船の位置

台湾漁船・台湾沿岸警備隊所属漁船・領有権主張活動の状況



台湾漁船の位置

その時々々の情勢に応じ、しよ成体制を強化する等して万全な領海警備を実施

### 鄧小平の樓

昭和59年10月、日中友好ムーンが舞まる中平旦し鄧小平副首相は、「われわれの世代の人間は知識が足りない、この問題の底がまともでない。次の世代は、きっと我々より賢くなるだろう。その席は必ず、お互いに首が受け入れられるよい方法を見つけることができるだろう。」と述べた。

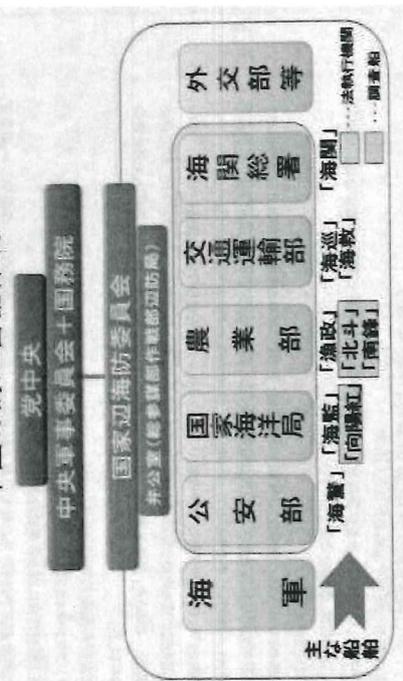
- 尖閣問題の棚上げ提案
- ⇒ そもそも問題が存在しないものぞ、棚上げ提案する
- ⇒ 老獪な手法

(おさらい)

- 1 中国の立場 (歴史的経緯)  
 釣魚島は、14-5世紀(明朝)に中国が発見し、命名したが、日本が1895年(明治28年)に日清戦争を利用して奪み取ったと主張。  
 尖閣諸島は、台湾の付属島嶼と主張。  
 ⇒ 国際法上、燕尾だけでは未成熟の権原  
 ⇒ 台湾が清国の支配下に置かれたのは、1684年(江戸初期天保4年)である。

- 2 我國の立場 (領土地に對する先占—いづれの國家にも屬していない土地の受動的支配で確立)  
 尖閣諸島が日本固有の領土であることは歴史的にも国際法上も明らかであり、現に我が国は、これを有効に支配している。  
 したがって、尖閣諸島をめぐる解決しなければならぬ領有権の問題は、そもそも存在しない。

### 中国の海上警備体制



### 中国の歴代王朝倒壊から得た内政の教訓

- 1 地方に農民暴動が頻発する ⇒ 農民暴動 15 万件以上？  
 農民工の欠賃、ウイグル (東トルキスタン) ・チベット分断独立運動  
 毛沢東：1950年代に戸籍管理制度導入時、『農民をもっと工業を支える』  
 ⇒ 農民から集めた金を、補助金として工業におよぶ。  
 鄧小平：80年代、改革・開放政策を進めた前も、戸籍管理制度は撤廃できなかった。  
 前期改革は都市部から先行し、農村部は後進的かつ、大ニエツラ。  
 李光耀：都市部政策にも、戸籍管理制度の差
- 2 官僚の汚職が激しくなり、権力が内部から腐敗する ⇒ 汚職件数 17.2 万件  
 「ハエも叩くがトラも叩く」  
 ロフター一週間は3月30日付で、「(陳永貴) 罪状や罰金など3900人以上が身納めされた」、「差し押さえられた資産は計900億元 (約1.47兆円)」などと報じた。  
 ※ 周永康：'07秋、最高検察とされる抗美党中央常務委員
- 3 大平天国・義和団等新興宗教が勃興し、体制批判の受け皿となる  
 法輪功 (フアールンゴン) ・キリスト教への弾圧  
 NHK4月29日 「貧富の格差などさまざまな社会問題を背景に、都市部と農村部の両方で、キリスト教徒が急増し、その数は1億人上るともみられています。... 中国共産党は、当局の管理を超えてキリスト教が広がることとは、共産党の政権奪取を招くおそれがある」と警告しており、...



### 中国の外交の言葉の変遷

- 1 親光養徳 有所作為 (鄧小平)
- 2 親睦路線は継続するが、言わなければならぬ  
ないことは積極的に言うべき  
・ 93李鵬「防衛の対象に海洋権益をあげる」  
・ 97石重生「海軍発展戦略」
- 3 核心的利益  
・ '09戴秉国 (1) 国家主権と領土保全  
台湾、チベット、東トルキスタン  
後、南沙群島、尖閣諸島  
(2) 国家の基本制度と安全の維持 (3) 経済社会の持続的で安定した発展

### 中国の海洋覇権獲得の定石といわれるもの

- 1 諸島の領有を一方的に宣言
- 2 領有の根拠となる国内法整備
- 3 海洋調査の実施
- 4 公断による法の執行
- 5 海空軍の出動と軍事力優勢の確保
- 6 占領とその既成事実化

○ 中国は「中華人民共和国領海および接続水域法」(議決「領海法」)を92年(平成4年)2月施行  
⇒ 尖閣諸島を中国の領土と規定  
「日中当国間、領土領有取り上げ法含義 92年(平成4年)の五輪中前」(朝日新聞)1992年12月10日(第0903)  
江沢民・中国共産党総書記(当時)が前年春に訪日し、戦には意思が初対峙する方向が伺われていた。中国側は英島動中を、89年の天安門事件以降に懸念していた国際的孤立を解消していく目標ととらえていた。  
※ 中華人民共和国と中国共産党(平成4年)(宮内庁)  
ご訪問期間：平成4年10月23日～10月28日

### 懸念材料と安心材料

#### (懸念材料)

- ・ 一党独裁体制国家である
- ・ 中央集権、軍導政権国家である
- ・ 北京建都時のみ
- ・ 国連安保理の常任理事国
- ・ 国連の決議を問題としない
- ・ 軍事予算を年10%超で増加(572→1,122億\$)
- ・ 最新兵器の開発
- ・ 核心的利益
- ・ 韓国・日本は中国の辺境国、北外の地(東風)
- ・ 世界中のTVのTVでCGTV放映されている
- ・ 米軍事予算を削減(6810→6,000億\$)
- ・ 歴戦気分
- ・ ハーバード大学等、IVVリーグへの日本人留学生の減少
- ・ 安全原則問題への姿勢
- ・ 世界中の外資のTVでNHKは放映されていない

#### (安心材料)

- ・ 国内に分離独立運動を起している
- ・ 一人っ子政策 ⇒ 都市部の一部二人っ子へ緩和
- ・ 同盟関係を超えない(鄧小平)
- ・ 北朝鮮以外は同盟なし
- ・ 南(55)東(4)発言 ⇒ 沖縄
- ・ 海軍部品による被害
- ・ 首言相は、連れ知日派の、権威者長時代、長崎、沖縄隊との交
- ・ 権威者アモイ副市長、権威者長時代、長崎、沖縄隊との交
- ・ 核心的利益には、米(前)ゲイツへヘーゲル国防長官
- ・ から、反論 ⇒ 紛争の平和的解決義務及び武力行使禁止原則違反の可能性(国連憲章2条3項4項)
- ・ (日本)
- ・ 尖閣の社会的占有権
- ・ 「第2次海洋基本計画」を平成25年4月採択
- ・ 日米同盟

### 「領有権の問題はそもそも存在しない」との姿勢の堅持

尖閣の社会的占有権と「新2次海洋基本計画」の着実な実行  
日米同盟の強化

### 中国の大陸棚延伸提案と中国が設定した防空識別圏



大陸棚延伸提案と防空識別圏を重複させることにより、国連海洋法条約にのっとったものであると主張しているのでは！？

第1列島線とも共通しており、主張の一貫性を窺っている？

→ 主張しつつ米国への配慮も匂わせる老練な手法！？

### G零の時代

Pax Americana の後 (ウクライナ クリミア問題)

(Pax Russo-Americanaであった外輸を勝ち抜き、米国一極体制Pax Americanaを確立したが・・・)

- 1 軍事力、経済力等の国力に優り
  - 2 自由民主主義という価値、国際秩序を単独でも守るという意思と十分な求心力の後
- (理由) ①中国、ロシア等新興国の露陞による露陞  
②露陞気分

- (具体例) ①国防費を毎年10%削減  
②本年9月以降に海兵隊、艦艇の前線計画を検討  
③'16年在韓軍費削減計画を検討



(Pax Sinis/russo - Americana)  
(Pax Americana)

日本の優れた政治家のステートマンシップにより、東アジア地域の安定、繁栄のために協力して絵が描ける日が来るまで、海上保安官は、人知れぬ尖閣海域等の洋上で領海警備等に頑張りを続けます。



事業報告



## 神戸港港湾計画の変更（軽易な変更）に関する調査検討委員会

1 日 時 平成26年7月3日(木) 13:30～15:40

2 場 所 ラッセホール B1階 リリーの間

3 出席者 別紙のとおり

4 議 題

(1) 調査方針について

(2) 計画変更内容・安全性の検討等について

(3) 報告書構成について

5 資 料

(1) 検討資料委1-1 調査方針（案）

(2) 検討資料委1-2 計画変更内容・安全性の検討等（案）

(3) 検討資料委1-3 報告書構成（案）

(4) 参考資料1 航行環境等

(5) 参考資料2 船舶の接岸及び牽引に関する計算結果（抜粋）

(6) 参考資料3 操船シミュレータ実験結果（抜粋）

(7) 参考資料4 入出港に伴う航行安全対策等（抜粋）

席上配布資料

検討資料委1-2 6頁 差替え

検討資料委1-2 11頁 差替え

検討資料委1-3 2頁 差替え

6 議 事

事務局より出席者の紹介、委託者として、神戸市みなと総局 桜井 秀憲技術部長の挨拶があった。

その後、資料の確認の後、委員長の選任が行われ、井上 欣三委員が委員長に選任された。

以後、井上 欣三委員長により議事が進められた。

7 審 議 結 果

提示された検討資料は、委員会において出た意見、指摘等を盛り込み、一部文言の修正することを前提に了承された。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略)            は欠席者

※海防研常任委員

委 員	井 上 欣 三	神戸大学名誉教授※
〃	市 川 義 文	海技大学校准教授
〃	村 井 五 郎	大阪湾水先区水先人会会長※
〃	中 島 敏 行	大阪湾水先区水先人会副会長※
〃	今 西 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問※
〃	迫 田 孝 広	日本郵船(株)関西支店支店長代理※ (同席 堤 義晴 関西支店支店長代理)
〃	國 友 雄 二	(株)商船三井関西支店副支店長※
〃	松 島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※
〃	加 藤 琢 二	神戸旅客船協会会長 (代 山西 哲司 専務理事)
〃	鴨 頭 明 人	全日本海員組合関西地方支部長
〃	寄 神 茂 之	日本押船土運船協会会長(代 松村 孝一 業務委員)
〃	大 東 洋 治	兵庫海運組合理事長
〃	村 岡 博	三菱重工業(株)神戸造船所船渠長※
〃	八 木 武 人	川崎重工業(株)船舶海洋カンパニー船渠長※
関係官公庁	犬 藤 学	第五管区海上保安本部交通部長 (代 坂中 裕司 安全課長) (同席 仲田 幸生 海務第二係専門員)
〃	徳 永 裕 之	神戸海上保安部長 (代 松本 勇 次長) (同席 下須 弘文 航行安全課専門官)
〃	成 瀬 英 治	近畿地方整備局港湾空港部長 (代 石田 博 港湾計画課長補佐)
委 託 者	桜 井 秀 憲	神戸市みなと総局 技術部長
〃	山 本 雄 司	〃 技術部計画課長
〃	小 林 弘 幸	〃 みなと振興部海務課長
〃	山 村 昭	〃 〃 振興課長
〃	和 田 秀 俊	〃 技術部計画課計画第2係長
〃	石 川 勝 博	〃 〃 計画第2係員
事 務 局	山 本 幸 典	(公社)神戸海難防止研究会 専務理事
〃	伊 藤 雅 之	〃 常務理事

事務局	宮島照仁	(公社)神戸海難防止研究会	事業部長
〃	塔本吉夫	〃	事業部長補佐
〃	藤原昇	〃	事業部長補佐

LNG 船受入船型拡大及び着離棧基準に係る航行安全対策調査委員会  
ビジュアル式操船シミュレータ実験Ⅲ

- 1 実施日 平成26年7月7日(月)、8日(火)
- 2 実施場所 (株)日本海洋科学 ソリッドスクエア 東館1階  
シミュレータセンター
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 シミュレータ実験実施内容
  - 7日(月) 12:30~13:00 実施要領等説明
  - 13:10~13:40 ① 操船実験
  - 13:40~14:00 ミーティング・休憩
  - 14:00~14:30 ② 操船実験
  - 14:40~15:10 ③ 操船実験
  - 15:10~15:40 ミーティング・休憩
  - 15:40~16:10 ④ 操船実験
  - 16:20~16:50 ⑤ 操船実験
  - 16:50~17:20 ミーティング・休憩
  - 17:20~17:50 ⑥ 操船実験
  - 18:00~18:30 ⑦ 操船実験
  - (1日目終了)
  
  - 8日(火) 08:30 集合
  - 08:45~09:15 ⑧ 操船実験
  - 09:25~09:55 ⑨ 操船実験
  - 09:55~10:15 ミーティング・休憩
  - 10:15~10:45 ⑩ 操船実験
  - 10:45~11:05 ミーティング・休憩
  - 11:05~11:35 ⑪ 操船実験
  - 11:45~12:15 ⑫ 操船実験
  - 12:15~13:05 ミーティング・昼食
  - 13:05~13:35 ⑬ 操船実験
  - 13:45~14:15 ⑭ 操船実験
  - 14:15~14:35 ミーティング・休憩

14:35～15:05 ⑮ 操船実験  
15:15～15:45 ⑯ 操船実験  
15:45～16:15 ミーティング  
16:15 解散

5 資 料

- (1) ビジュアル式操船シミュレータ実験Ⅲ実施要領
- (2) アンケート用紙

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略)            は欠席者

※海防研常任委員

部 会 長	世 良 亘	神戸大学大学院海事科学研究科准教授※
委 員	鈴 木 三 郎	神戸大学名誉教授※
〃	松 本 宏 之	海上保安大学校教授※
〃	村 井 五 郎	大阪湾水先区水先人会会長※
〃	中 島 敏 行	大阪湾水先区水先人会副会長※
〃	今 西 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問※
〃	迫 田 孝 広	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
〃	國 友 雄 二	(株)商船三井関西支店副支店長※
〃	松 島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※
操 船 者	山 下 公 弘	大阪湾水先区水先人会
〃	池 上 英 二	〃
関係官公庁	犬 藤 学	第五管区海上保安本部交通部長 (代 三田 弘 企画調整官) (同席 吉本 秀幸 安全課専門官)
〃	八 木 博 志	大阪海上保安監部長(代 勝部 光人 航行安全課長) (同席 濱田 春菜 第一海務係員)
〃	宮 本 勝 通	堺海上保安署長 (同席 清水 景平 港務係長)
委 託 者	A社	
事 務 局	伊 藤 雅 之	(公社)神戸海難防止研究会 常務理事
〃	宮 島 照 仁	〃 事業部長
〃	中 村 紳 也	(株)日本海洋科学 専務取締役
〃	伊 藤 格	〃 コンサルタントグループ統括部長
〃	原 大 地	〃 神戸支店長
〃	久 下 剛 也	〃 神戸支店主任コンサルタント
〃	高 橋 浩 子	〃 〃 主任コンサルタント
〃	平 田 裕 一	〃 〃 コンサルタント

## 平成26年度第4回船積危険品研究委員会

1 日 時 平成26年7月15日(火)13:00～15:00

2 場 所 商船三井ビル 4階 会議室

3 出席者 別紙のとおり

4 連絡事項

5 議 題

(1) 検討個品について

(2) その他

6 資 料

席上配布

- (1) 検討個品資料
- 1 修正箇所 二酸化塩素水溶液
  - 2 二酸化塩素水溶液 (3回目修正)
  - 3 1908 安定化二酸化塩素  
データ一覧

7 議 事

事務局より出欠状況、資料の確認の後、廣井委員長により議事が進められた。

- 検討個品資料
- 1 二酸化塩素水溶液は修正箇所の確認を行なった。
  - 2 二酸化塩素水溶液 (3回目修正) の検討を行なった。次回も引き続き検討を行うこととなった。
  - 3 1908 安定化二酸化塩素の検討を行なった。次回も引き続き検討を行うこととなった。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略)            は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	廣 井 正 男	元神戸商船大学教授※	
委 員	三 村 治 夫	神戸大学大学院海事科学研究科教授	
〃	児 玉 正 浩	(一財)海上災害防止センター西日本支所 キソー化学分析センター長※ (代 末吉 信昭 技師)	
〃	堤 義 晴	日本郵船(株)関西支店支店長代理※	
〃	國 友 雄 二	(株)商船三井関西支店副支店長※ (代 白方 馨 海務監督)	
〃	慶 松 美 雄	日本沖荷役安全協会神戸支部専務理事・事務局長※ (代 藤原 外喜夫 安全管理部長)	
〃	山 根 健 次	(独)海上技術安全研究所構造基盤技術系 基盤技術研究グループ主任研究員	
関 係 官 庁	徳 田 直 之	神戸運輸監理部海上安全環境部船舶安全環境課専門官	
〃	真 鍋 朗 宏	第五管区海上保安本部警備救難部環境防災課長	
〃	坂 中 裕 司	第五管区海上保安本部交通部安全課長 (代 仲田 幸生 海務第二係専門員)	
〃	勝 部 光 人	大阪海上保安監部航行安全課長	
〃	前 田 健 太	神戸海上保安部航行安全課長	
事 務 局	伊 藤 雅 之	公益社団法人神戸海難防止研究会常務理事	
〃	宮 島 照 仁	〃	事業部長
〃	藤 原 昇	〃	事業部長補佐

# 平成26年度明石海峡航行操船への津波の影響に関する調査研究 第1回委員会

1 日 時 平成26年8月4日(月)13:30～16:35

2 場 所 パレス神戸 2階 大会議室

3 出席者 別紙のとおり

4 議 題

(1) 調査方針等について

(2) 基礎調査について

(3) 操船シミュレーション実施方案について

5 資 料

(1) 検討資料委1-1 調査方針等(案)

(2) 検討資料委1-2 基礎調査(案)

(3) 検討資料委1-3 操船シミュレーション実施方案(案)

(4) 参考資料

6 議 事

事務局により出席者の紹介、資料の確認後、(公社)神戸海難防止研究会 山本専務理事より挨拶を行った。その後、委員長の選任を行い、長澤 明委員が委員長に選任された。

以後、長澤 明委員長により議事が進められた。

7 審 議 結 果

提示された検討資料は、委員会において出た意見、指摘等を盛り込み、一部文言の修正することを前提に了承された。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略)

※海防研常任委員

委 員	長 澤 明	海上保安大学校名誉教授※
〃	岩 瀬 潔	海技大学校教授※
〃	世 良 亘	神戸大学大学院海事科学研究科准教授※
〃	山 田 登	内海水先区水先人会会長※
〃	今 西 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問※
〃	加 藤 琢 二	神戸旅客船協会会長 (代 山内 昭二 ジャンボフェリー(株)船長)
〃	堤 義 晴	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
〃	國 友 雄 二	(株)商船三井海上安全部部長代理※
〃	松 島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※
関係官公庁	犬 藤 学	第五管区海上保安本部交通部長 (代 坂中 裕司 安全課長) (同席 吉本 秀幸 安全課専門官)
〃	渡 辺 一 樹	第五管区海上保安本部海洋情報部長 (同席 泉 紀明 海洋調査課長)
〃	徳 永 裕 之	神戸海上保安部長 (同席 加藤 一也 航行安全課専門官)
〃	田 上 明 彦	大阪湾海上交通センター所長 (同席 新富 敏隆 運用管制課長)
〃	田 中 暁	神戸運輸監理部海上安全環境部長
事 務 局	山 本 幸 典	(公社)神戸海難防止研究会専務理事
〃	伊 藤 雅 之	〃 常務理事
〃	宮 島 照 仁	〃 事業部長
〃	藤 原 昇	〃 事業部長補佐
〃	國 安 政 幸	(株)エム・オー・エルマリンコンサルティング関西事務所長
〃	豊 島 伸 匡	(株)エム・オー・エルマリンコンサルティング関西事務所主任研究員

# LNG船受入船型拡大及び着離棧基準に係る航行安全対策調査委員会 第4回検討部会

- 1 日 時 平成26年8月26日(火) 13:25～17:10
- 2 場 所 神戸メリケンパークオリエンタルホテル 4階 銀河の間
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 議 題
  - (1) 風速基準見直しに係る航行安全対策について
  - (2) 操船シミュレータ実験Ⅲ実施結果について
  - (3) 離棧時間帯拡大に係る安全性の検討について
  - (4) 離棧時間帯拡大に係る航行安全対策について
- 5 資 料 (送付済み)
  - (1) 検討資料部4-1 風速基準見直しに係る航行安全対策 (案)
  - (2) 検討資料部4-2 操船シミュレータ実験Ⅲ実施結果 (案)
  - (3) 検討資料部4-2 同 上 (資料編) (案)
  - (4) 検討資料部4-3 離棧時間帯拡大に係る安全性の検討 (案)
  - (5) 検討資料部4-4 離棧時間帯拡大に係る航行安全対策 (案)席上配布資料
  - (1) 検討資料部4-1 風速基準見直しに係る航行安全対策 (案) 【全差替え】
  - (2) 検討資料部4-4 離棧時間帯拡大に係る航行安全対策 (案) 【全差替え】
- 6 議 事

事務局から出欠者の報告、資料の確認後、世良 亘部会長により、議事が進められた。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略)                      は欠席者

※海防研常任委員

部 会 長	世 良 亘	神戸大学大学院海事科学研究科准教授※
委 員	鈴 木 三 郎	神戸大学名誉教授※
〃	松 本 宏 之	海上保安大学校教授※
〃	村 井 五 郎	大阪湾水先区水先人会会長※
〃	中 島 敏 行	大阪湾水先区水先人会副会長※
〃	今 西 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問※
〃	堤 義 晴	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
〃	國 友 雄 二	(株)商船三井海上安全部部長代理※
〃	松 島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※
関係官公庁	犬 藤 学	第五管区海上保安本部交通部長 (代 三田 弘 企画調整官) (同席 戸川 義徳 海務第二係長)
〃	八 木 博 志	大阪海上保安監部長(代 勝部 光人 航行安全課長)
〃	宮 本 勝 通	堺海上保安署長 (同席 早川 拓郎 航海士補)
委 託 者	A社	
事 務 局	伊 藤 雅 之	(公社)神戸海難防止研究会常務理事
〃	宮 島 照 仁	〃 事業部長
〃	藤 原 昇	〃 事業部長補佐
〃	伊 藤 格	(株)日本海洋科学コンサルタントグループ統括部長
〃	高 橋 浩 子	〃 神戸支店主任コンサルタント
〃	平 田 裕 一	〃 〃 コンサルタント

## 平成26年度第5回船積危険品研究委員会

1 日 時 平成26年9月16日(火)13:00～15:00

2 場 所 商船三井ビル 4階 会議室

3 出席者 別紙のとおり

4 連絡事項

5 議 題

(1) 検討個品について

(2) その他

6 資 料

席上配布

(1) 検討個品資料 1 修正箇所 二酸化塩素水溶液 / 安定化二酸化塩素

2 二酸化塩素水溶液 (4回目修正)

3 1908 安定化二酸化塩素 (1回目修正)

データ一覧

4 1866 樹脂液

(2) 参考資料 1 樹脂溶液の例

7 議 事

事務局より出欠状況、資料の確認の後、廣井委員長により議事が進められた。

検討個品資料 1 二酸化塩素水溶液 / 安定化二酸化塩素の修正箇所確認を行った。

2 二酸化塩素水溶液 (4回目修正) は修正箇所の確認を行ない、検討を終了した。

3 安定化二酸化塩素 (1回目修正) は修正箇所の確認後、検討を行なった。次回も引き続き検討を行うこととなった。

4 1866 樹脂液は次回検討を行なうこととした。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略)                      は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	廣 井 正 男	元神戸商船大学教授※
委 員	三 村 治 夫	神戸大学大学院海事科学研究科教授
〃	児 玉 正 浩	(一財)海上災害防止センター西日本支所 キソー化学分析センター長※
〃	堤 義 晴	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
〃	國 友 雄 二	(株)商船三井海上安全部部长代理※ (代 白方 馨 海務監督)
〃	慶 松 美 雄	日本沖荷役安全協会神戸支部専務理事・事務局長※ (代 藤原 外喜夫 安全管理部長)
〃	山 根 健 次	(独)海上技術安全研究所構造基盤技術系 基盤技術研究グループ主任研究員
関係官庁	<span style="background-color: #cccccc;">徳 田 直 之</span>	神戸運輸監理部海上安全環境部船舶安全環境課専門官
〃	真 鍋 朗 宏	第五管区海上保安本部警備救難部環境防災課長 (代 伊藤 友希 第一災害対策係長)
〃	坂 中 裕 司	第五管区海上保安本部交通部安全課長 (代 仲田 幸生 海務第二係専門員)
〃	<span style="background-color: #cccccc;">勝 部 光 人</span>	大阪海上保安監部航行安全課長
〃	前 田 健 太	神戸海上保安部航行安全課長 (代 加藤 一也 専門官)
事務局	官 島 照 仁	公益社団法人神戸海難防止研究会事業部長
〃	藤 原 昇	〃 事業部長補佐

# LNG船受入船型拡大及び着離棧基準に係る航行安全対策調査 第3回委員会

- 1 日 時 平成26年9月30日(火) 13:30～15:20
- 2 場 所 神戸メリケンパークオリエンタルホテル 4階 銀河の間
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 議 題
  - (1) 第2回委員会議事概要について
  - (2) 検討部会報告について
  - (3) 調査方針変更について
  - (4) 航行安全対策について
  - (5) 報告書構成について
- 5 資 料 (送付済み)
  - (1) 第2回委員会議事概要
  - (2) 検討資料委3-1 調査方針変更 (案)
  - (3) 検討資料委3-2 航行安全対策 (案)
  - (4) 検討資料委3-3 報告書構成 (案)席上配布資料
  - (1) 席上配布資料-1 検討資料委3-2 航行安全対策 (案) 【全部差替え】
  - (2) 席上配布資料-2 検討資料委3-3 調査報告書構成 (案) 【表紙差替え】
- 6 議 事

事務局から出欠者の報告、資料の確認後、鈴木委員長により、議事が進められた。
- 7 審 議 結 果

提示された検討資料は、委員会において出た意見、指摘等を盛り込み、一部文言の修正することを前提に了承された。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略)

※海防研常任委員

委 員 長	鈴 木 三 郎	神戸大学名誉教授※
委 員	世 良 亘	神戸大学大学院海事科学研究科准教授※
〃	松 本 宏 之	海上保安大学校教授※
〃	村 井 五 郎	大阪湾水先区水先人会会長※
〃	中 島 敏 行	大阪湾水先区水先人会副会長※
〃	今 西 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問※
〃	堤 義 晴	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
〃	國 友 雄 二	(株)商船三井海上安全部 部長代理※
〃	松 島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※
〃	池 野 誓 男	大阪府タグ事業協同組合理事長 (代 植村 博 専務理事)
〃	松 田 和 男	堺泉北船舶安全協議会会長
関係官公庁	犬 藤 学	第五管区海上保安本部交通部長 (同席 戸川 義徳 海務第二係長)
〃	八 木 博 志	大阪海上保安監部長 (代 勝部 光人 航行安全課長)
〃	宮 本 勝 通	堺海上保安署長 (代 清水 景平 港務係長)
〃	井 上 博 睦	大阪府港湾局長 (代 戸田 功 計画調整課長) (同席 山谷 武 計画グループ主査)
委 託 者	A社	
事 務 局	山 本 幸 典	(公社)神戸海難防止研究会専務理事
〃	伊 藤 雅 之	〃 常務理事
〃	宮 島 照 仁	〃 事業部長
〃	藤 原 昇	〃 事業部長補佐
〃	伊 藤 格	(株)日本海洋科学コンサルタントグループ統括部長
〃	高 橋 浩 子	〃 神戸支店主任コンサルタント
〃	平 田 裕 一	〃 〃 コンサルタント

## 平成26年度近畿・四国地方海難防止強調運動の実施結果について(報告)

近畿・四国地方海難防止強調運動推進連絡会議  
事務局(公社)神戸海難防止研究会  
(公財)海上保安協会神戸地方本部

平成26年度全国海難防止強調運動は、7月16日から31日まで(16日間)実施された。

当地方においては、平成26年5月22日(木)近畿・四国地方海難防止強調運動推進連絡会議を開催し、承認された実施計画に基づき運動を推進、展開した。

各関係団体等から事務局に報告のあった実施概要は、次のとおりである。

なお、事務局においては、運動啓蒙用品グッズとして「オリジナルうちわ」「クリアファイル」各10,000枚を作成して関係団体等に配布した。

### 各関係団体等の実施内容

(順不同・敬称略)

団体名	実施概要
運輸安全委員会事務局 神戸事務所	強調運動期間中、事務所において、海難防止運動啓蒙グッズの「うちわ」「クリアファイル」を配付した。
神戸地方海難審判所	全国海難防止強調運動用ポスターの掲示、「海難ゼロ旗」の掲示、海難防止強調運動啓蒙用品「うちわ」「クリアファイル」を関係者に配布した。
神戸旅客船協会	会員宛に、通達をもって安全運航の確保について一層の尽力を要請するとともに、協会事務所及び中突堤旅客ターミナル「かもめりあ」にポスターを掲示し、さらに、会員各社には、リーフレット、うちわ、クリアファイル等を配付、また、「海難0旗」の在庫がある場合は旅客船に掲揚するように要請する等の啓蒙活動を行った。
全日本海員組合 関西地方支部	◎広報活動 ・みなとまつり神戸(7/20、7/21) ◎安全運航に関する指導・教育・訓練 漁船 22隻、貨物船 17隻

団 体 名	実 施 概 要
全日本海員組合 関西地方支部	タンカー 3隻、旅客船 13隻 作業船 8隻、その他 15隻 指導等合計隻数 78隻 企業等訪問件数 10件
全国内航タンカー海運組合	◎広報活動 ・事務局内にポスター掲示 ◎安全運航に関する指導・教育・訓練 タンカー 7隻
内海水先区水先人会	実施事項 1 安全標語を掲げ、各事務所に掲示。 「危険予知 絶えず続けて 絶える事故」 2 水先艇に安全旗を掲揚し、水先艇係留基地の整備を実施。 3 「全国海難防止強調運動実施中」の横断幕を本部事務所付近の陸橋に掲示。 4 初ハーバー当直会員に対する音声操船シミュレーター訓練の実施。 5 安全衛生委員会を開催し、水先艇乗組員との意見交換会を実施。 6 業務連絡会並びに技術研修会に於いて、本船乗組員とのBRMの重要性について周知徹底
近畿運輸局	◎広報活動 1 運航労務監理官による船舶監査 (7/17～7/30 大阪港) 2 小型船舶操縦者遵守事項安全パトロール (7/26 和歌山市、7/27 大津市) 3 上記、3か所において安全指導を実施するとともに、周知啓蒙活動を実施。 事務所内に啓発ポスターを掲示、窓口にリーフレット及び広報グッズを備置・配布。 ◎安全運航に関する指導・教育・訓練 プレジャーボート(水上オートバイ等) 4隻 貨物船 12隻、旅客船 1隻 指導等合計隻数 17隻

団 体 名	実 施 概 要
四国旅客船協会	パンフレット、グッズ等を協会会員に配布し、海難防止強調運動の周知啓蒙を実施した。
近畿地方整備局	<p>◎広報活動</p> <p>神戸港湾、大阪港湾、舞鶴港湾、和歌山港湾の各事務所においてポスターを掲示して内外に周知すると共に、直営船舶乗組員や工事請負業者に対して啓蒙グッズ（うちわ・クリアファイル）を配付し、海難防止の意識高揚を図った。</p> <p>◎安全に関する指導・教育・訓練</p> <p>大阪港湾、舞鶴港湾の各事務所では、月1回実施している安全パトロールにおいて、工事請負業者に対して海難防止強調運動を紹介し、工事安全と併せて海難事故防止にも留意するよう要請した。</p>
大阪管区气象台	配布を受けた「うちわ」「クリアファイル」について台内配布した。
四国地方整備局	広報活動の一環として「うちわ」「クリアファイル」を配布した。
神戸運輸監理部	<p>◎広報活動</p> <p>広報グッズの窓口での配布（4ヶ所）</p> <p>◎各種行事</p> <p>7月23日 旅客船合同訓練（180人参加）</p> <p>◎安全に関する指導・教育・訓練</p> <p>1. 安全運航に関する指導隻数</p> <p>プレジャーボート 95隻、貨物船 44隻 タンカー 6隻、旅客船 41隻 合計 186隻</p> <p>2. 安全教育関係</p> <p>海難防止講習会 3回（受講者数179人）</p>
近畿旅客船協会	<p>◎広報活動</p> <p>旅客船（主としてフェリー）待合所、協会事務所前（大阪南港ATC）にポスターの掲示</p> <p>協会所属員にリーフレット・うちわを配布して海難</p>

団 体 名	実 施 概 要
近畿旅客船協会	<p>防止の周知を行った。</p> <p>◎安全教育関係</p> <p>6月24日乗組員研修会開催（参加約60名）</p>
瀬戸内海漁業調整事務所	<p>◎広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業取締船による広報活動 <p>全国海難防止強調運動期間中（7月16日から7月31日まで）、瀬戸内海海域において漁業取締りを従事する当事務所所属漁業取締船「白鷺」及び「みかげ」に装備している電光式情報表示装置に「海難防止強調運動実施中」や「ライフジャケットを着用しましょう」のテロップ表示をし、操業中の漁船に対する広報活動を行った。</p> </li> <li>・ポスター掲示等による広報活動 <p>全国海難防止強調運動期間中（7月16日から7月31日まで）において、当事務所が入居する神戸地方合同庁舎内1階及び2階の共用掲示板に海難防止運動啓発ポスターを掲示し、当事務所執務室入口及び執務室内にも同ポスターを掲示した。</p> <p>7月21日メリケンパークで開催された「ボート天国」のイベントの一環で行われた漁業取締船「白鷺」の一般公開において、展示ブース内で海難防止運動啓発ポスターの掲示、海難防止運動グッズの配布及びライフジャケットの実物展示を行った。</p> </li> </ul> <p>◎各種行事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海の事故ゼロキャンペーン出動式への参加 <p>7月16日、神戸新港第一突堤にて関係機関が連携した「海の事故ゼロキャンペーン出動式」が開催され、漁業取締船「みかげ」及び取締担当者が参加した。</p> </li> </ul> <p>◎安全に関する指導・教育・訓練</p> <p>当該運動期間中において漁業取締巡視を実施した際に、ライフジャケットを着用していなかった漁</p>

団 体 名	実 施 概 要
瀬戸内海漁業調整事務所	<p>船乗組員に対して、漁業取締船に装備している船外マイクを利用してライフジャケット着用の呼びかけ及び指導を行った。</p> <p>・安全運航に関する指導漁船隻数 10隻</p>
(公社) 関西小型船安全協会	<p>◎安全に関する指導</p> <p>プレジャーボートを対象にライフジャケットの着用の推進、安全装備の確認、併せて当協会発行の安全啓発冊子を配布し、海難予防活動を実施した。</p> <p>各地域での指導日及び指導対象艇数（5隻から15隻程度）</p> <p>7月20日 高知県宿毛湾</p> <p>7月26日 和歌山県田辺湾及び白浜海岸沖の海面</p> <p>7月26日 徳島県徳島港及び小松島港沖の海面</p> <p>7月26日 高知県浦戸湾と桂浜沖の海面</p>
第五管区海上保安本部	<p>平成26年度全国海難防止強調運動実施計画に基づく重点事項及び推進項目、これに地方独自の推進項目をあわせた内容で海難防止強調運動を展開、啓発活動を実施した。</p> <p>第1 キャンペーン期間 平成26年7月16日（水）から 31日（木）まで（16日間）</p> <p>第2 重点事項等</p> <p>1. 重点事項</p> <p>(1) 「見張りの徹底及び船舶間コミュニケーションの促進」</p> <p>(2) 「ライフジャケットの常時着用等自己救命策の確保」</p> <p>(3) <u>【地方重点項目】「小型船舶における軽率海難防止の徹底」</u></p> <p>2. 推進項目</p> <p>(1) 「見張りの徹底及び船舶間コミュニケーションの促進」</p> <p>ア 常時適切な見張りの徹底</p>

団 体 名	実 施 概 要
第五管区海上保安本部	<p>イ 船舶間コミュニケーションの促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 早めに相手船にわかりやすい動作をとる</li> <li>・ VHF や汽笛信号等を活用する</li> </ul> <p style="text-align: center;"><u>【地方推進項目】国際 VHF の常時聴取</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ AIS 情報の活用と正しい情報の入力</li> </ul> <p>(2) 「ライフジャケットの常時着用等自己救命策の確保」</p> <p style="text-align: center;">小型船舶について自己救命策の確保</p> <p>(3) <u>【地方重点項目】「小型船舶における軽率海難防止の徹底」</u></p> <p>ア 発航前における船体、機関等点検の徹底</p> <p>イ 船舶運航にかかる基本的事項遵守の徹底</p> <p>ウ 航行中のみならず操業・作業中も含めた見張りの徹底</p> <p>エ 気象・海象情報の入手</p> <p>オ 構成員が連携した安全活動の推進</p> <p style="text-align: center;">※小型船：プレジャーボート、漁船、遊漁船</p> <p>管区内の各地区の活動実績</p> <p>(1) 広報活動（後述参照）</p> <p>(2) 各種行事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 巡視船艇体験航海・一般公開 10回 2894人</li> <li>・ 一日海上保安部署長・港長・船長等 4回 6410人</li> <li>・ ボート天国 1回 54200人</li> <li>・ 合同パトロール等 12回 315人</li> <li>・ その他 36回 1430人</li> </ul> <p>(3) 安全指導隻数 574隻</p> <p>(4) 安全教育・訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海上安全教室 20回 1799人</li> <li>・ 海難防止講習会 6回 157人</li> </ul> <p style="text-align: right;">合計 26回 1956人</p>

団 体 名		実 施 概 要
各地区推進 母体 (大阪地区)	築友会 (間口運輸(株))	◎広報活動 ①ポスターの掲示場所 事務所内掲示 ②所属員への周知方法 メールにて周知・リーフレットを配布
	日本小型船舶検査 機構大阪支部	◎広報活動 ①ポスターの掲示場所 玄関掲示板、窓口、検査場 ②所属員への周知方法 リーフレットを受験船舶に配布(大阪の船長さん! 事故に気をつけて! ボートを安全に利用するために) ③その他の広報 事務所窓口にリーフレット備えつけている。
	近畿旅客船組合	◎広報活動 ①ポスターの掲示場所 旅客船フェリー待合室 ②所属員への周知方法 リーフレット及びうちわを配布
	大阪フェリー協会	◎広報活動 ①ポスターの掲示場所 大阪南港・かもめ・こすも各フェリーターミナル ②所属員への周知方法 各フェリー会社宛に周知文配布(各社船内を含む) ③その他の広報 7月3日フェリー多客期前、安全輸送打合せ会議開催。同会議において強調運動の事前説明を行う。 各社運航管理者宛、説明文・資料を案内通知実施。

団 体 名	実 施 概 要
各地区推進 母体 (大阪地区)	◎広報活動 ①ポスターの掲示場所 事務所応接室 ②所属員への周知方法 会議にて周知 ③その他の広報 事務所入口にリーフレット及び啓発グッズを 設置して職員、来訪者に配布
(社) 浚渫業協会	◎広報活動 ①ポスターの掲示場所 協会事務所内 ②所属員への周知方法 F A Xにて周知 ◎教育 (安全研修内容) ・熱中症対策及び台風災害防止と見張りの徹底等 海上衝突予防 ・膨張式ライフジャケットの交換等について 対象者 社員及び船員 参加人数 98名
大阪府港湾局	◎広報活動 ①ポスターの掲示場所 経営振興課入口 ③その他の広報 課内カウンターにリーフレット及び啓発グッ ズを置き、来訪者へ広報
大阪釣船業 (協)	◎広報活動 ①ポスターの掲示場所 店頭 ②所属員への周知方法 所属各店舗への訪問

団 体 名	実 施 概 要
各地区推進 母体 (大阪地区)	◎広報活動 ①ポスターの掲示場所 二色ハーバークラブハウス 1階にて掲示 ②所属員への周知方法 出艇申告書等提出の際に通知等 ③その他の広報 ハーバーHP等 ◎教育（安全研修内容） ・自己救命策確保講習実施 対象者　オーナー会員等クラブ員 参加人数　60名
大阪北港地区 防災協議会	◎広報活動 ①ポスターの掲示場所 桜島埠頭(株)石油埠頭事務所・梅町事務所 ②所属員への周知方法 協議会所属事務所に対し、推進会議席上配布資料を送付、協力を申請
大阪湾水先区 水先人会	◎広報活動 ①ポスターの掲示場所 事務所入口 ②所属員への周知方法 懇談会で議事録を提示
大阪給油船協会	◎広報活動 ①ポスターの掲示場所 給油所 ②所属員への周知方法 会議にて周知、リーフレット配布 ◎教育（安全研修内容） ・ライフジャケットの着用 ・発航前の点検 ・見張りの徹底 ・気象、海象に対する判断について

団 体 名		実 施 概 要
各地区推進 母体 (大阪地区)	大阪給油船協会	対象者 船員 参加人数 19名
	近畿地方整備局 大阪港湾・空港整備 事務所	◎広報活動 ①ポスターの掲示場所 事務所玄関 ②所属員への周知方法 リーフレット及び啓発グッズの配布 ③その他の広報 工事現場における安全講和 ◎教育（安全研修内容） ・海上工事にかかる安全講和 対象者 工事作業者 参加人数 23名
	(公社) 関西小型船 安全協会大阪府支部	◎広報活動 ①ポスターの掲示場所 マリーナ掲示板・自治会広報板 ②所属員への周知方法 クラブハウス内掲示及びボートにリーフレット等配布 ③その他の広報 大阪港プレジャーボート体験乗船にて広報
	堺泉北船舶安全 協議会	◎広報活動 ①ポスターの掲示場所 危険物荷役岸壁の船員待合所、代理店及び所属タンカー ②所属員への周知方法 メールを使用して全員に通知した。
	大阪府タグ事業 協同組合	◎広報活動 ①ポスターの掲示場所 大阪府きららセンタービル玄関及び同ビル玄関横ポールに旗掲揚

団 体 名		実 施 概 要
各地区推進 母体 (大阪地区)	大阪府タグ事業 協同組合	②所属員への周知方法 メールにて周知
	大阪海上保安監部 堺海上保安署 岸和田海上保安署 関西空港海上保安航 空基地	<p>◎広報活動</p> <p>①ポスターの掲示場所 事務所掲示板</p> <p>②所属員への周知方法 文書、メール</p> <p>③その他の広報 巡回周知活動、マリーナ訪問</p> <p>◎各種行事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1日海上保安官任命式及び広報活動 1回</li> <li>・ 他機関との合同パトロール 1回</li> <li>・ 海難防止キャンペーン等 2回</li> </ul> <p>◎安全に関する指導・教育・訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全運航に関する指導隻数 プレジャーボート 62隻、貨物船 4隻 タンカー 22隻、作業船 5隻 水上バイク 4隻、浚渫船、曳船 18隻 遊漁船 16隻、セーリングヨット 150隻 合計隻数 281隻</li> <li>・ 企業訪問件数 11件 (マリーナ)</li> <li>・ 訓練等 大阪湾水先区水先人会にて、新人水先人の シミュレーター研修</li> </ul>
	堺海上保安署	<p>◎教育 (安全研修内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水難事故者救助法等 対象者 小中学生 参加人数 353名</li> </ul> <p>◎教育 (安全研修内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海難防止講習会 対象者 プレジャーボート、ヨット船長 参加人数 19名</li> </ul>

団 体 名		実 施 概 要
各地区推進 母体 (大阪地区)	岸和田海上保安署	◎教育（安全研修内容） ・海難防止講習会 対象者 マリーナ所属船長 参加人数 42名 ◎教育（安全研修内容） ・自己救命策確保講習 対象者 キッズボートイベント参加者 参加人数 30名
	大阪海運組合	◎安全教育関係 ・「海難防止強調運動」と「事故救命策確保」と題して、大阪海上保安監部担当官よりパワーポイント映写による講習及び縄梯子の作製講習 実施回数 1回 受講者数 46名
	大阪海上保安監部 堺海上保安署 岸和田海上保安署 関西空港海上保安 航空基地	◎安全教育関係 ・海上安全教室 実施回数 6回 受講者数 556名 ・海難防止講習会 実施回数 4回 受講者数 141名
各地区推進 母体 (兵庫県阪神 淡路地区)	(財)海上保安協会 神戸支部 寄神建設 (株)	◎広報活動 ①当社事務所入口及び船舶にポスターを掲示。 ②当社所属船舶にポスター及びリーフレットを配布し船内に掲示。 ③期間中、当社が管理する船舶に「海難0旗」を掲揚。 ◎安全に関する指導・教育・訓練 ①当社が運航管理する曳船及び作業船に安全パトロールを実施し、乗員に対する海難防止指導を実施。 ② 7月28日 神戸第二合同庁舎1Fにおいて、神戸運輸監理部が実施した「平成26年度安全運航講習会」に5名が参加。 ③ 7月24日 神戸まちづくり会館に於いて、

団 体 名		実 施 概 要
各地区推進 母体 (兵庫県阪神 淡路地区)	(財)海上保安協会 神戸支部 寄神建設 株	日本押船土運船協会が主催した「平成26年度海難防止講習会」に当社社長(海上保安協会神戸支部長)以下当社員7名が参加。
	兵庫県漁業協同組合 連合会	◎広報活動 県内漁協系統団体機関紙「拓水」7月号に広報記事を掲載し、県内漁協組合員をはじめ関係者に対し、当該運動の重要性と海難防止を強く訴えかけた。また、ポスターを関係各所に掲示し、当該運動の重要性を広く普及した。 ◎安全教育関係 海上安全教室 1回 10人 海難防止講習会 1回 20人 合計 2回 30人
	兵庫県港運協会 (はしけ部会)	◎安全に関する指導・教育・訓練 (安全運航に関する指導隻数) 作業船(曳船) 4隻 その他(はしけ) 10隻 合計14隻 企業等訪問件数 14件 ◎安全教育関係 海上安全教室 1回 4人 海難防止講習会 1回 20人 合計 2回 24人
	兵庫海運組合	◎広報活動 当組合事務局内にポスター等を掲示し、来訪者への周知活動を行った。
	兵庫県水難救済会	◎広報活動 兵庫県災害防災センター内にポスターを掲示

団 体 名		実 施 概 要
各地区推進 母体 (兵庫県阪神 淡路地区)	神戸海事広報協会	◎広報活動 全国海難防止強調運動のポスターを事務所入口に掲示。
	(一社)神戸港振興協会	◎広報活動 ①神戸ポートタワー塔頂への「海難0旗」の掲揚 ②神戸海洋博物館、神戸ポートタワー等へのポスター掲示。
	日本沖荷役安全協会 神戸支部	◎広報活動 ①沖荷役現場視察の際、本船及び内航船にリーフレットを配布し、周知した。 ②事務所にポスターを配付し、来客者に周知した。 ③当協会が季節毎に発行している安全情報誌にリーフレットを掲載し、会員に周知した。 ◎安全に関する指導・教育・訓練 (安全運航に関する指導隻数) タンカー 26隻、 その他 1隻 合計27隻
神戸地区石油コンビナート等安全推進協議会 (KT会幹事：シンコーケミカル・ターミナル(株)神戸事業所)	◎広報活動 ①日本ヴォパック(株)神戸事務所 ・事務所入口、栈橋監視小屋に啓発ポスター等掲示。 ・着栈船舶に対してパンフレット、うちわ等の啓発グッズを渡した。 ②JX日鉱日石エネルギー(株)神戸油槽所 ・事務所内にリーフレットを掲示 ・栈橋監視建屋に「海難0旗」を掲揚 ③シンコーケミカル・ターミナル(株)神戸事業所 ・事務所内に啓発ポスターを掲示 ④ティー・エム・ターミナル(株)神戸事業所 ・「全国海難防止強調運動」ポスターを掲示	

団 体 名		実 施 概 要
各地区推進 母体 (兵庫県阪神 淡路地区)	神戸地区石油コンビ ナート等安全推進協 議会 (KT会幹事：シン コーケミカル・ター ミナル(株)神戸事業 所)	<p>・グループウェアに強調運動を掲示</p> <p>◎安全に関する指導・教育・訓練</p> <p>①日本ヴォパック(株)神戸事務所 着積船舶の船員に対してライフジャケット着 用を指示</p> <p>②JX日鉱日石エネルギー(株)神戸油槽所 7月16日～31日の間、着積するタンカーに 対し、全国海難防止強調運動のリーフレット、広 報用うちわ、クリアファイルを配布し、乗組員に 説明した。</p> <p>安全運航に関する指導隻数 タンカー 20隻</p>
	(公社)関西小型船安 全協会兵庫東部支部	<p>◎安全教育関係</p> <p>一般市民を対象とした海上安全に関する指導・ 教育</p> <p>平成26年7月29日の午後、神戸大学・海事 科学部練習船、深江丸を借用して「海と船の体験 教室」を開催し、海と船についての全般的な知識 を向上を図るプログラムの中に海上安全につい ての啓発プログラムを含めた指導を行った。当日 の参加者数は大人33名、小人29名</p> <p>海上安全教室 1回 62人 合計 1回 62人</p>
	兵庫県阪神南県民局 尼崎港管理事務所	<p>◎広報活動</p> <p>① 尼崎港を管理する尼崎埠頭(株)を通じて施設 利用者の船舶代理店に海難防止啓発グッズ「う ちわ」「クリアファイル」リーフレットを配布 した。</p> <p>② 西宮新港等を管理するひょうご埠頭(株)を通 じて施設利用者の船舶代理店に海難防止啓発グ ッズ「うちわ」「クリアファイル」リーフレット を配布した。</p>

団 体 名		実 施 概 要
各地区推進 母体 (兵庫県阪神 淡路地区)	兵庫県淡路県民局 洲本土木事務所	◎広報活動 ①淡路交流の翼港の管理所内にポスターを掲示 ②うちわ、クリアファイルを淡路交流の翼港で配布した。
	神戸市みなと総局	◎広報活動 海難防止強調運動ポスターの掲示 ◎各種行事 期間中の7月22日から31日の間、立会い強化期間として入出港船の立会い件数を増やした。 合計66隻
	神戸海上保安部 西宮海上保安署	◎広報活動 ①庁舎内に啓発用ポスターを掲示し、神戸メリケンパークオリエンタルホテル外壁に横断幕を掲示した。 ②航行安全課窓口において周知活動を行った。 ③企業、マリーナ等を訪問し、啓発ポスターによる周知活動を行った。 ◎各種行事 ①巡視船一般公開 神戸港ボート天国を実施し、神戸保安部ブースによる啓発、周知活動、巡視船「ふどう」体験航海を実施した。 ②一日海上保安部署長・港長・船長等 神戸港ボート天国を実施し、一日海上保安部長、一日海上保安官を任命し、海難防止の啓発、広報活動を行った。 ③ボート天国 神戸港ボート天国を実施し、一日海上保安部長、一日海上保安官を任命し、啓発、広報活動を行った。神戸保安部ブースによる啓発、周知活動、巡視船「ふどう」の一般公開を実施した。また、海上保安庁キャラクター「うみまる」による広報活動を実施した。

団 体 名		実 施 概 要
各地区推進 母体 (兵庫県阪神 淡路地区)	神戸海上保安部 西宮海上保安署	◎安全に関する指導・教育・訓練 ・指導 漁船 7隻 プレジャーボート 128隻 貨物船 8隻 タンカー 1隻 その他 19隻 企業等訪問件数 24件 ・教育関係 海上安全教室 3回 247人 海難防止講習会 2回 53人 合計5回 300人
各地区推進 母体 (播磨地区)	(株)ハマダ	◎広報活動 ・本社事務所2ヶ所、化工機工場1か所にポスターを 掲示
	飾磨海運(株)	◎広報活動 ・事務所2ヶ所にポスターを掲示
	(株)神戸製鋼所 加古川製鐵所	◎広報活動 ・事務所内にポスターを掲示 ◎各種行事 ・合同訪船パトロール 協力会社 7社 参加者 20名 ・訪船パトロール 2回 訪船隻数 5隻 訪船人数 15名
	(株)ダイセル 姫路製造所	◎広報活動 ・棧橋1か所、棧橋事務所及び正門掲示板の計2ヶ所 にポスターを掲示 ・横断幕の掲揚
	(株)日本触媒 姫路製造所 日蝕物流(株) 姫路支店	◎広報活動 ・棧橋1か所、棧橋事務所及2ヶ所にポスターを掲示 ・横断幕の掲揚
	たつの市	◎広報活動 ・石見漁業協同組合、室津漁業協同組合、新舞子観光 協同組合の3か所にポスターを掲示

団 体 名		実 施 概 要
各地区推進 母体 (播磨地区)	加古川農林水産 振興事務所	◎広報活動 ・庁舎内事務所2ヶ所にポスターを掲示
	姫路港管理事務所	◎広報活動 ・事務所にポスターを掲示
	姫路農林水産 振興事務所	◎広報活動 ・庁舎内事務所3ヶ所にポスターを掲示
	光都土木事務所	◎広報活動 ・事務所、野瀬見張所、赤穂見張所の3か所にポスターを掲示
姫路海上保安部 加古川海上保安署	<p>1 実施結果</p> <p>◎広報活動</p> <p>7月8日(火) 9日(水) 16日(水) 17日(木)の4日間において、保安部職員及び巡視艇乗組員により管内マリーナ、修理業者、ボートショップ等を訪問するとともに各推進連絡会構成員においても事務所に於いてもポスター、横断幕等を掲示し、全国海難防止強調運動の啓発活動を実施した。</p> <p>◎各種行事</p> <p>7月21日(祝)、海の日海事功労者表彰式典会場において、「姫路お城の女王」1名を1日海上保安官に任命し、巡視艇「ぬのびき」に乗組み、港内在泊船舶に対し事故防止を呼びかけるとともに巡視艇「ぬのびき」による一般公開を開催した。また、同日、加古川海洋文化センターにおいて、親子安全教室を開催に併せ、巡視艇による体験航海を実施した。</p> <p>◎安全に関する指導・教育・訓練</p> <p>漁船 21隻、プレジャーボート 86隻、 貨物船 7隻、タンカー 8隻、 旅客船 16隻 合計138隻</p> <p>企業等訪問件数 2件</p> <p>◎安全教育関係</p>	

団 体 名		実 施 概 要
各地区推進 母体 (播磨地区)	姫路海上保安部 加古川海上保安署	海上安全教室 実施回数 2回、受講者数 80名 海難防止講習会 実施回数 1回、受講者数 20名
各地区推進母体 (和歌山北部地区)		<p>◎広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各事務所へのポスター、看板の掲示、荷役船舶等関係船舶の乗員に対する訪船協力依頼、企業内会議等による周知。</li> <li>・公益財団法人和歌山県水上安全協会による、警察、関係団体、機関との海水浴場等における啓発活動。</li> <li>・和歌山海上保安部、海南海上保安署による鉄道駅構内、構成員以外の漁協、マリーナ、釣具店等に対するポスター掲示、リーフレット・グッズ配布等協力依頼。</li> </ul> <p>◎各種行事</p> <p>一日海上保安官、和歌山観光協会キャンペーンスタッフ、和歌山海上保安部、地元ライオンズクラブ等による、和歌山県立近代美術館前の徳川吉宗公銅像前及びイオンモール前におけるライフジャケット着用推進キャンペーン。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近畿運輸局和歌山運輸支局、和歌山海上保安部、和歌山海上保安部、和歌山警察、PW安全協会、関西小型船安全協会等によるプレジャーボート、水上オートバイ等小型船舶に対する事故防止合同パトロール実施。</li> </ul> <p>◎安全に関する指導・教育・訓練</p> <p>① 安全指導</p> <p>イ 訪問指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌山北部地区海難防止連絡会議構成員各企業、船舶代理店による、荷役関係船舶等に対する訪船指導。</li> <li>・和歌山海上保安部、海南海上保安署による、</li> </ul>

団 体 名	実 施 概 要
各地区推進母体 (和歌山北部地区)	<p>プレジャーボートに対する訪船指導。</p> <p>ロ 企業訪問            和歌山海上保安部、海南海上保安署による            海運関係企業、マリーナ、漁業協同組合の            訪問</p> <p>◎安全教育</p> <p>イ 安全研修会等            ・和歌山北部地区連絡会議構成員、関係行政機関による、関係者に対するライフジャケット着用研修・救命救急講習会。            ・和歌山海上保安部等による遊漁船関係者に対する海難防止講習会の実施。</p> <p>ロ 海上安全教室            ・関係行政機関等による、水難防止教室、心肺蘇生講習会。            ・和歌山海上保安部及び海南海上保安署による、小学校児童・教員等に対する水難事故救済に係る海上安全教室。</p> <p>③ 訓練            同会議構成員企業内において、救命訓練等を実施。</p> <p>・安全運航に関する指導隻数            漁船 2隻 プレジャーボート49隻            タンカー 131隻 作業船2隻            その他 7隻 企業等訪問件数 41件</p> <p>・安全教育関係            海上安全教室 11回 443人</p>

団 体 名	実 施 概 要
各地区推進母体 (徳島地区)	<p>◎広報活動及び各種行事</p> <p>①広報活動  「全国海難防止強調運動」実施開始に併せ、小松島みなと合同庁舎に懸垂幕、幟及び電光表示装置並びにポスターの掲示により広報活動を実施した。</p> <p>②巡視船「びざん」一般公開  7月20日、小松島みなとまつり実行委員会主催の「小松島港まつり」協賛行事として、地域への貢献・交流を促進し海上保安思想の普及を図るため、巡視船「びざん」の一般公開を実施した。一般公開には1,423名もの見学者が訪れ、一時は乗船を制限するほどの盛況ぶりであった。巡視船「びざん」乗船口付近に特設テントを設置し、海上保安官募集や海難防止啓発活動を行うとともに、「うーみん」との記念撮影及び制服試着コーナーを設けて海上保安庁のPRを行った。</p> <p>③訪船指導  全国海難防止強調運動期間中、徳島保安部所属巡視船により一般貨物船等に対し、訪船指導を実施した。</p> <p>④海上安全教室  ア 7月17日0930～1025 徳島市立南井小学校の6年生70名を対象とした、着衣泳を含む水難事故防止教室を実施  イ 7月20日1020～1050 徳島市のマリニピア沖洲において、親子アジ釣り教室に参加した約78名を含む総勢175名を対象とした水難事故防止講習を実施</p> <p>⑤海上安全指導員との合同パトロール  7月26日0930～1115 徳島小松島沖のオ亀磯～沖ノ瀬付近海域において、徳島地区所属の海上安全指導員の安全パトロール艇により合同パトロールを実施した。</p>

団 体 名	実 施 概 要
各地区推進母体 (徳島地区)	<p>⑥一日海上保安官による海難防止啓発活動(牟岐署との合同パトロール)</p> <p>美波町の親善大使である乙姫大使を一日海上保安官に任命し、牟岐警察署と合同で海難防止啓発活動を実施した。</p> <p>活動内容は、「うみがめマリクルーズ」の所属船の船長や牟岐大島の渡船等に対し、リーフレット等を配布し、海難防止を呼びかけた。</p> <p>⑦自己救命策確保教室</p> <p>日和佐小学校において、自己救命策確保教室を実施した。</p> <p>小学生(6年生)39名に対し、海上保安官により誤った救助方法及びクーラーボックス、たも網等を使用した救助方法を展示し、児童らは、海中転落時、救助を待つ体制である背浮きを体験した。</p> <p>⑧保育園児ライフジャケット着用体験</p> <p>保育園児に対し、ライフジャケットの着用体験を実施した。</p> <p>園児39名及び保育士10名に対し、ライフジャケットの正しい着用方法、海上保安官によるライフジャケットの有効性についての実演及びライフジャケットの着用体験を実施した。</p>
各地区推進母体 (高知地区)	<p>◎広報活動</p> <p>①港長業務窓口において周知活動を行った。</p> <p>②マリナー、漁協等を訪問しポスター掲示による周知活動を行った。</p> <p>③巡視船「とさ」及び巡視船「さんれい」の電光掲示板による周知活動を行った。</p> <p>◎各種行事</p> <p>安全指導員と合同パトロールを実施した。</p> <p>2回(59隻)</p> <p>◎安全に関する指導・教育・訓練</p> <p>漁船 31隻、プレジャーボート 13隻            旅客船 2隻、合計46隻</p>

団 体 名	実 施 概 要
各地区推進母体 (高知地区)	◎安全教育関係 海上安全教室 2回 (5名) 海難防止講習会 1回 (35名) 合計 3回 (40名)

神戸地方海難審判所  
ポスター掲示・グッズ配布



神戸旅客船協会  
中突堤中央ターミナル内掲示



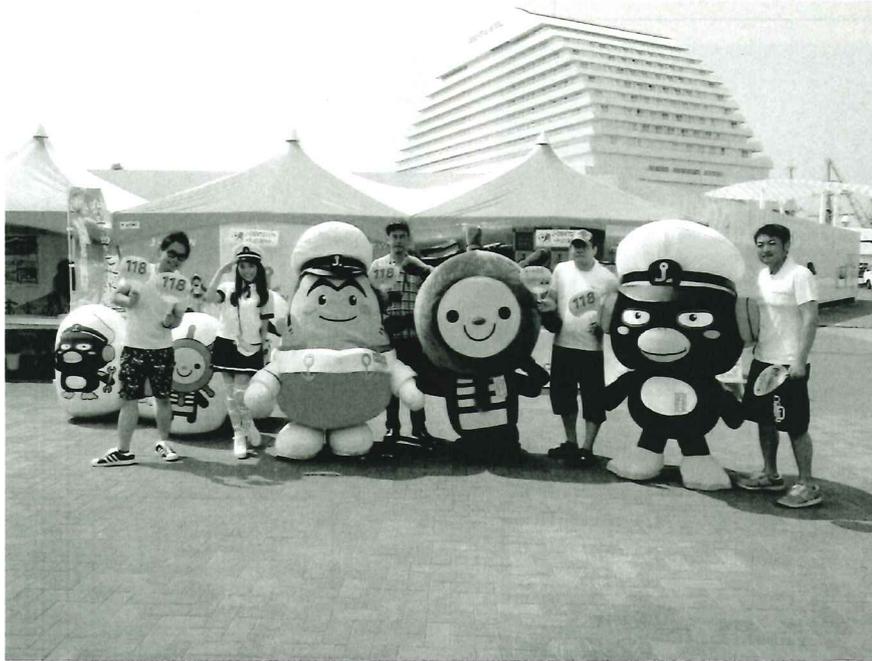
近畿旅客船協会  
乗組員研修会



大阪府タグ事業協同組合  
海難0旗掲揚



全日本海員組合関西地方支部  
啓蒙活動:神戸みなとまつり



神戸運輸監理部  
安全運航講習会  
7月16日ジャボフェリーにて



瀬戸内海漁業調整事務所  
海の事故ゼロキャンペーン参加  
漁業取締船「みかげ」



関西小型船安全協会  
高知県宿毛湾での海上パトロール



瀬戸内海漁業調整事務所  
ライフジャケット着用指導を呼びかける  
漁業取締船「みかげ」



瀬戸内海漁業調整事務所  
海難防止啓発グッズを配布しての広報活動



新日鐵住金(株)広畑製鐵所  
「全国海難防止強調運動実施中」  
周知広報幟旗掲揚



(株)ダイセル姫路製造所  
(周知広報) ポスター掲示



(株)日本触媒・日蝕物流  
(周知広報) 横断幕掲揚



光都土木事務所  
(周知広報) ポスター掲示



徳島地区  
広報(懸垂幕展張)



徳島地区  
訪船指導



大阪湾マーチス  
広報活動



大阪地区  
広報(一般公開)



高知地区  
海難防止講習会



高知地区  
合同パトロール



和歌山北部地区  
広報(うみまる)



阪神淡路地区  
若年齢層への安全指導



阪神淡路地区  
広報活動



和歌山北部地区  
周知活動



播磨地区  
広報活動一日海上保安



播磨地区  
合同点検  
全国内航タンカー海運組合



播磨地区  
海難防止講習会



# 会 務 報 告



## 第21回 業務運営会議

- 1 日 時 平成26年7月16日(水)12:00～12:45
- 2 場 所 商船三井ビル 4F 会議室
- 3 出席者 (順不同・敬称略)
- |        |      |                                    |
|--------|------|------------------------------------|
| 代表理事   | 赤岡隆夫 | (公社)神戸海難防止研究会会長                    |
| 業務執行理事 | 山本幸典 | (公社)神戸海難防止研究会 専務理事                 |
| 〃      | 伊藤雅之 | (公社)神戸海難防止研究会 常務理事                 |
| 構成員    | 鈴木三郎 | 神戸大学名誉教授                           |
| 〃      | 山田登  | 内海水先区水先人会会長                        |
| 〃      | 稲岡俊一 | (株)商船三井執行役員<br>(代 國友 雄二 関西支店副支店長)  |
| 〃      | 村井五郎 | 大阪湾水先区水先人会会長                       |
| 〃      | 小島茂  | (一社)日本船長協会会長<br>(代 今西 邦彦 技術顧問)     |
| 〃      | 門野英二 | 川崎汽船(株)常務執行役員<br>(代 松島 豊 関西支店副支店長) |
| 〃      | 酒井隆司 | 日本郵船(株)関西支店長<br>(代 堤 義晴 関西支店長代理)   |
| 〃      | 改発康一 | 神鋼物流(株)顧問                          |
| 事務局    | 板坂茂良 | (公社)神戸海難防止研究会総務部長                  |
| 〃      | 宮島照仁 | 〃 事業部長                             |
| 〃      | 中谷和人 | 〃 事業部長補佐                           |

### 4 議 題

- (1) 業務報告等について
- (2) その他

### 5 資 料

席上配布

- 業務報告等
- 今後の委員会予定
- 常任委員名簿

### 6 議 事 概 要

赤岡会長の挨拶があり、引き続き議事に入った。

議題（１）業務報告等について、山本専務理事から説明があり、特に意見はなかった。

引き続き、議題（２）その他について、山本専務理事から「今後の委員会予定」、「常任委員の異動等」の説明と報告があった。

以 上

## 第22回 業務運営会議

- 1 日 時 平成26年9月17日(水)12:00～12:55
- 2 場 所 商船三井ビル 4F 会議室
- 3 出席者 (順不同・敬称略)                      は欠席者
- |        |   |                                    |
|--------|---|------------------------------------|
| 代表理事   | 赤岡 隆夫   | (公社)神戸海難防止研究会会長                    |
| 業務執行理事 | 山本 幸典   | (公社)神戸海難防止研究会 専務理事                 |
| 〃      | 伊藤 雅之   | (公社)神戸海難防止研究会 常務理事                 |
| 構成員    | 鈴木 三郎   | 神戸大学名誉教授                           |
| 〃      | <span style="background-color: #cccccc;">山田 登</span>  | 内海水先区水先人会会長                        |
| 〃      | <span style="background-color: #cccccc;">稲岡 俊一</span> | (株)商船三井執行役員                        |
| 〃      | 村井 五郎   | 大阪湾水先区水先人会会長                       |
| 〃      | 小島 茂  | (一社)日本船長協会会長<br>(代 今西 邦彦 技術顧問)     |
| 〃      | 門野 英二   | 川崎汽船(株)常務執行役員<br>(代 松島 豊 関西支店副支店長) |
| 〃      | 酒井 隆司   | 日本郵船(株)関西支店長<br>(代 堤 義晴 関西支店長代理)   |
| 〃      | 改発 康一   | 神鋼物流(株)顧問                          |
| 事務局    | 宮島 照仁   | (公社)神戸海難防止研究会事業部長                  |
| 〃      | 中谷 和人   | 〃 事業部長補佐                           |

### 4 議題

- (1) 業務報告等について
- (2) その他

### 5 資料

席上配布

- 業務報告等
- 常任委員名簿(平成26年9月17日現在)
- 業務計画

### 6 議事概要

赤岡会長の挨拶があり、引き続き議事に入った。

議題(1)について、山本専務理事並びに伊藤常務理事から説明があり、特に意見はなかった。

引き続き、議題(2)について、山本専務理事から常任委員の更新等の報告があった。

以上

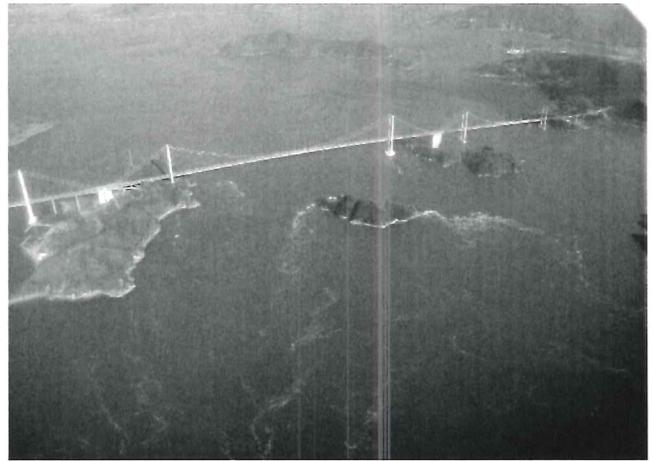
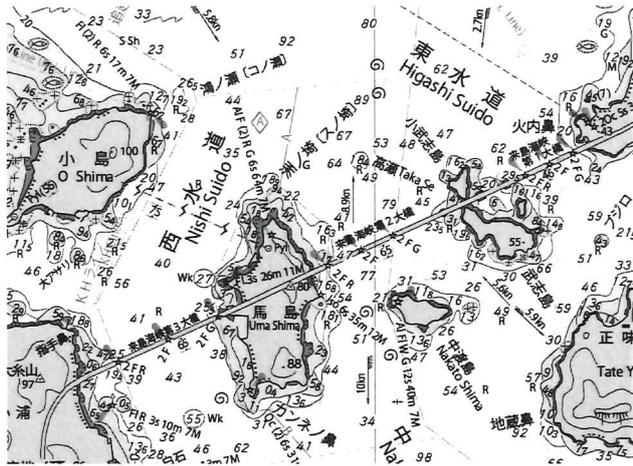
○ 事務日誌抄

(H26. 7. 1～H26. 9. 30)

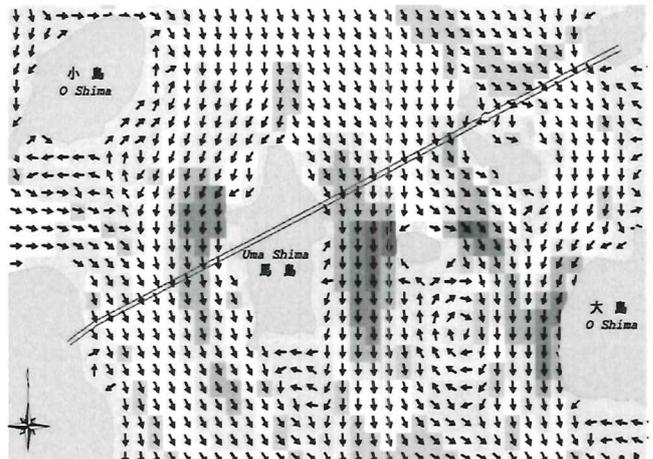
月日	曜日	時間	委員会名	実施場所
7. 3	(木)	1330	神戸港港湾計画の変更（軽易な変更）に関する調査検討委員会	ラッセホール
7. 7	(月)	1230	LNG船受入船型拡大及び着離棧基準に係る	(株)日本海洋科学本社
～8	(火)	1615	航行安全対策調査委員会ビジュアル式操船シミュレータ実験Ⅲ	
7. 15	(火)	1300	平成26年度第4回船積危険品研究委員会	商船三井ビル4F会議室
7. 16	(水)	1200	第21回業務運営会議	商船三井ビル4F会議室
7. 25	(金)	1500	第21回月例会	こうべまちづくり会館
8. 4	(月)	1330	平成26年度第1回明石海峡航行操船への津波の影響に関する調査研究委員会	パレス神戸 会議室
8. 26	(火)	1330	LNG船受入船型拡大及び着離棧基準に係る航行安全対策調査委員会第4回検討部会	メリケンパークオリエンタルホテル
9. 16	(火)	1300	平成26年度第5回船積危険品研究委員会	商船三井ビル4F会議室
9. 17	(水)	1200	第22回業務運営会議	商船三井ビル4F会議室
9. 25	(木)	1500	第22回月例会	こうべまちづくり会館
9. 30	(火)	1330	LNG船受入船型拡大及び着離棧基準に係る航行安全対策調査第3回委員会	メリケンパークオリエンタルホテル

## ○ お 知 ら せ

2014年6月20日 海上保安庁の潮流シミュレーションサイト  
「来島海峡潮流情報」がOPENしました。



# 海の難所 “一に来島”



海上保安庁の潮流シミュレーションサイト

# 来島海峡潮流情報



2014年6月20日 サイトOPEN!

- ・ PCでもスマートフォンでもアクセス可能です
- ・ 海峡全域、海峡北部、海峡中央部、海峡南部の4つのエリアの潮流情報を表示します

Kurushima Tidal

検索



海域選択画面 (TOPページ)

地図上の海域をクリックすると直近の海域潮流情報が表示されます。  
Click on the map or table below to see the present tidal current map.

下記の海域をクリックしても選択できます。  
You can also see the tidal current map by clicking the below table.

海峡全域 Whole Area	海峡北部 Northern Part	海峡中央部 Central Part	海峡南部 Southern Part
--------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------



海上保安庁 海洋情報部

お問い合わせ先: rtkd@jodc.go.jp

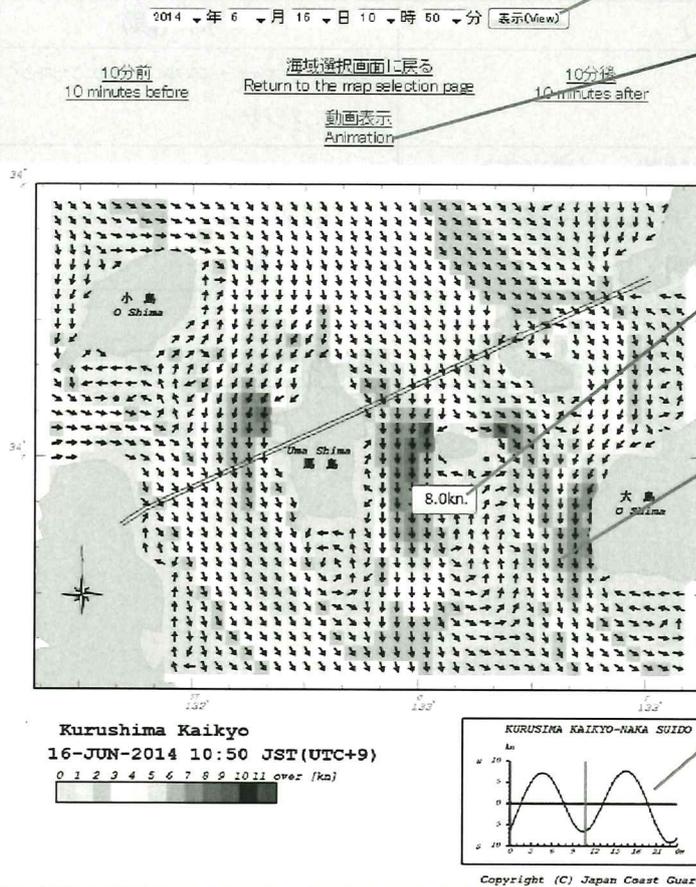
# 来島海峡潮流情報 KURUSHIMA KAIKYO Tidal Current Information

潮流情報表示画面 (PCでの閲覧時)

10分毎の任意の日時を選択可能です

来島海峡潮流情報 海峡中央部  
Kurushima Kaikyo Tidal Current Information ( Central Part)

アニメーションで潮流の変化がわかります



矢印にカーソルを重ねるとその場所の流速値を表示します

カラーと矢印で流れの強さと向きを表します

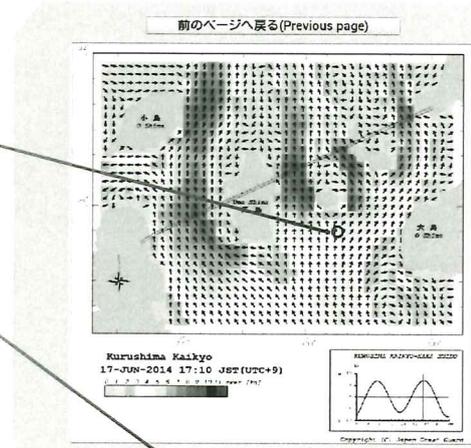
来島海峡中水道の流速をグラフで表示します

現在位置表示画面 (スマートフォン限定機能)

閲覧者の位置を画面に表示します

画面上の閲覧者の位置と位置情報は30秒おきに更新されます

閲覧者の位置情報を表示します



2014/6/17 17:08:19  
緯度(Lat.) : 34° 6' 46"  
経度(Long.) : 133° 0' 13"  
表示位置の精度(Accuracy) : 40.5m



海上保安庁 海洋情報部  
お問い合わせ先 : rtkd@jodc.go.jp